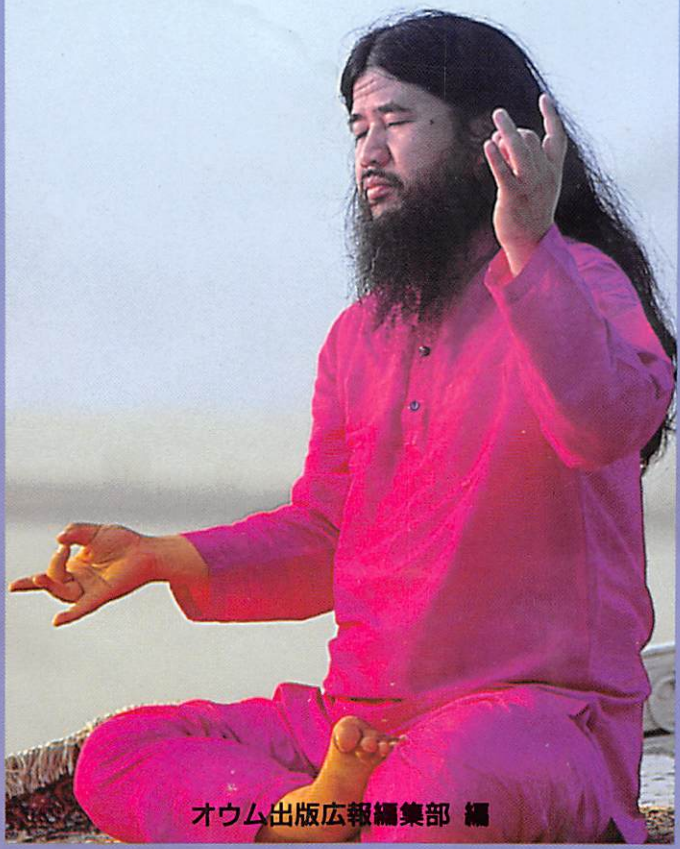
SHAKTIPAT

原爆覚醒

精神の炎を目覚めさせよ!



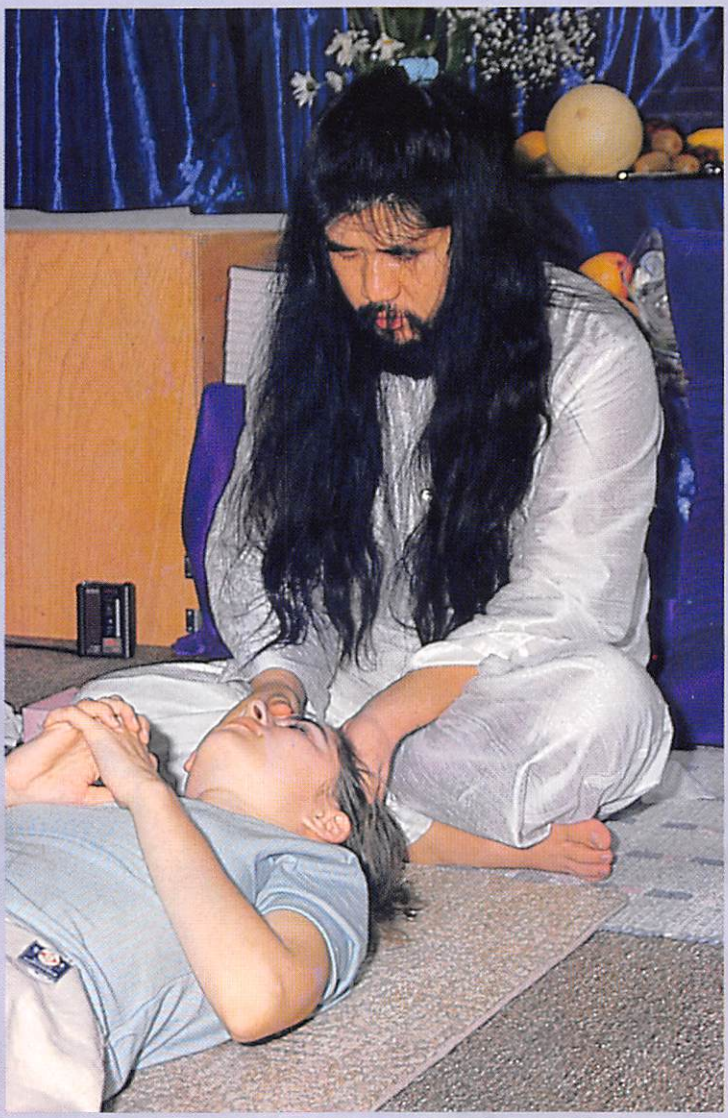
オウム出版広報編集部 編

SHAKTIPAT

原爆覚醒

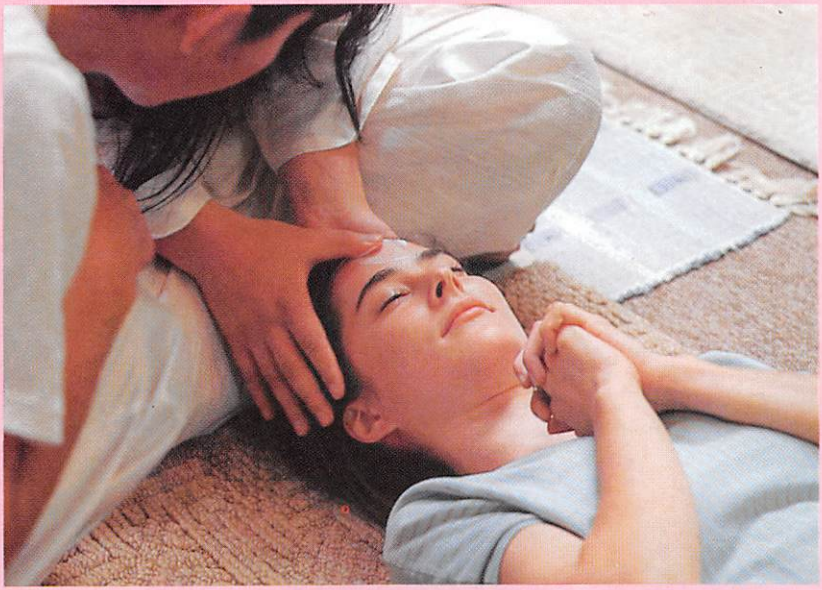
精神の炎を目覚めさせよ!

オウム出版広報編集部 編



オウム真理教の秘儀シャクティーパット。精神の炎がここに目覚める。

ニューヨークで奇跡を見せる麻原尊師とマハー・ケイマ正大師。
シャクティーパットはアメリカ人をも覚醒させた。



86年ヒマラヤにて。ドイツ人修行者も奇跡を見た。

自己を超えて神となる。その王道がここにある。

はじめに

「わたしの名が呼ばれた。シャクティーパットの順番が回ってきたらしい。戸を開けて恐る恐る中へ入る。聖者らしいその方は、粗末なトレーニング・ウェアを身にまとい、座を組んだまま微動だにしない。が、顔には穏やかな笑みを浮かべている。

『仰向けになって、頭をこちらに向けなさい。』

流ちょう、かつ丁寧な口調に加えて、無駄な言葉がいっさいない。少しばかり遠慮ぎみにスペースをとったわたしに、その方は自ら近付き、右手親指をわたしの眉間に置き、回し始めた……。」

それは、こんなふうに始まる。初めて体験する神秘の世界は、あまりにも静かに、そして意外なほど突然やってくるのだ。しかし間もなく、わたしたちの前に、

日常の世界が音を立てて崩れていくような、奇跡の瞬間が立ち現われるのである。

「五分くらい経っただろうか。尾てい骨が微妙に振動し始め、むずむずした快感が背骨の上を走り抜けた。同時に体が上へ上へと抜け出すような妙な感じになり、意識が今までより数センチ上から自分を見下ろしているのが認められた。そのうち、わたしの目の前では、フラッシュのような光がパッパッと何度も小さな爆発を繰り返した。」

「いよいよクンダリニーの上昇だ。額から送り込まれたエネルギーは、いったんアナハタ・チャクラで止まる。それから、アナハタ・チャクラから気が上昇し頭頂に達する。頭頂に達すると、今度はムーラダーラ・チャクラにまで下降する。すると、背骨のあたりがスースーした。

『これがスシュムナー管なんだ。』
わたしは、実感した。目の前の光は依然として明るく、自分がその光に包まれているのがわかる。意識はとても鮮明だ。」

「『どうですか。何か見えますか。』と、問いかけられた。そのころには、右上方より左下方にかけて、綺麗な虹が直線的な帯状となって見えていたので、そのようにお伝えした。そのうち、その虹が輪となりアージュニァー・チァクラの付近でくるくると回り出した。」

「『俺にも光が見えた。やっと皆と同じになった。』
と、内心喜んでいると、今度は画面が赤一色に変わった。尊師は、
『赤が見えるだろう。この赤は、クンダリニーの色だよ。』
と、言われた。それが終わって、次は緑色でいっぱいになった。

『綺麗な緑だろう。これは、アナハタ・チャクラの色だよ。』……」

「『宇宙、宇宙』という言葉が意識の中に広がっていきました。わたしの体にのしかかっていた重荷が、すっかり取り除かれて『無』の状態になりました。その軽さといったら、まるで宇宙空間に漂っているようです。」

「『起きて。』

と、言われたけれども、体中がしびれて全く動くことができなかった。ようやくしびれが消えかけたころ、今度は何が何だかわからないうちに、至福感でいっぱいになった。それは、欲しくて欲しくてたまらなかったものを、やっと手に入れた喜びとも違う。セックスしたときの満足感とも、宝くじに当たったときとも違う。この世では絶対味わえそうもない、不思議な感覚だった。」

いかがだろうか。これが、オウム真理教が誇る世界でも類を見ないイニシエーション（秘儀伝授）、シャクティーパットなのだ。しかし、ここでご紹介したのはシャクティーパットのほんの一面にすぎない。この神秘のイニシエーションは、日々忙しさの中で人生を振り返る暇もなく、様々なストレスを抱えたわたしたち現代人に、限りない恩恵を与えてくれるものなのである。

さあ、それではこれから、あなたをシャクティーパットの世界へとご案内しよう。本書は間違いなく、あなたを神々の世界へといざなうことだろう。

なお、本書をさらに深く理解したいという方は、ぜひ以下の書籍も併せて目を通していただきたい。

『タターガタ・アビダンマ　第一誦品』
『タターガタ・アビダンマ　第二誦品』
『超能力秘密の開発法』

『生死を超える』
『イニシエーション』（以上いずれも、麻原彰晃著　オウム出版）
『麻原彰晃のザ・サマディ』（麻原彰晃監修　オウム出版）

一九九一年十二月　オウム出版広報編集部

☆☆

目次

原爆覚醒
精神の炎を目覚めさせよ！

●はじめに——1

第一章　現代の奇跡、そして神秘の世界へ　15

一、伝説のイニシエーション、シャクティーパット——16

●最高の贈物

●だれにでもできる

☆☆

●お寺じゃダメ
●絶対必要なイニシエーション
●イニシエーションの王、シャクティーパット

二、クンダリニーが覚醒し、人間を超える

●神秘のエネルギー、クンダリニー
●クンダリニーの覚醒はこのように見える
●一つ間違えば破滅の道
●だれにでもできるものではない
●オウム真理教にのみ存在するイニシエーション
●人間を超えた者たちがなすシャクティーパット
●ガンで死ぬ「手かざし」とは違う

☆☆

第二章　解剖――そのとき何が起こっているのか　45

一、世界が認めた聖なる儀式――46

●ニューヨークで証明された奇跡
●プレッシャーをはねのけて
●ドアを通り抜けると金色の世界
●肉体からも周囲の世界からも分離した
●三百パウンドも悪いエネルギーが出た
●インドの聖者も花輪で祝福
●思わず金髪の女性に目が……

二、マハー・ニルヴァーナへ続く神秘の道筋――64

●尊師のシャクティーパットの場合
●至福感と光の体験
●マハー・ケイマ正大師に見るシャクティーパットの神秘

☆☆

●異次元をつなぐ神秘のパイプ
●二十日間の極厳修行
——ヤソーダラー正大師のシャクティーパット

第三章　対談「シャクティーパットの秘密を探る」

●カルマの認識
●素晴らしいイニシエーション
●グルを意識せよ——続出する神秘体験
●三悪趣への道を打ち破る
●アストラルに映し出されるもの
●失われるサットヴァの光
●イニシエーターの使命
●すべてを映し出す透明な心

●シャクティーパットの負担
●それだけ激しい修行
●身も心も犠牲にして——それこそ本望
●信徒さんの変化が喜びとなって
●過去の自分への愛

第四章　救済者の証——慈しみ、そして愛　129

一、隠された苦悩——カルマを背負う、過酷な修行——130
●ガンで逝った聖者
●〝三度の死〟——さまよった生死の境
●さらに肝硬変、失明、そして肝臓ガン
●抜けられない痴呆状態——マハー・ケイマ正大師の苦悩

●本当に悲惨な状態
●涅槃の体験――迎えにきた光
●ヤソーダラーの名に託された、グルの愛
●心の乱れ――五大エレメントの崩壊
●大乗に向かって――四十日間の独房修行
●恐ろしいカルマの交換
●悪魔の影響
●大乗までの激しいワンステップ
二、大いなる〝あがない〟――人々を利するために――
●大乗の修行――オウム真理教の真髄
●真の仏陀への道
●シャクティーパットは大乗の入り口
●大乗の背景にある心
●四無量心と大乗の発願

☆☆

●真理の系統——救済者の使命
●真理の実践者のみが知る最高の叡智
●他の苦しみを自己の苦しみに——「苦の詞章」に隠されたもの
●大乗の修行こそ自己のための修行
●愛に支えられた奇跡——広がりゆく心
●研ぎすまされる神通、そして空の合一
●光の道筋、シャクティーパット
●おわりに——

☆☆

第一章

現代の奇跡、そして神秘の世界へ

一　伝説のイニシエーション、シャクティーパット

・最高の贈物

この人間の世界の上に、限りない多くの世界がある。知的水準においてわたしたちをはるかに上回る世界。功徳に満ちあふれ、日々楽しみの中で暮らす世界。空中を自由に飛来し、喜びを食べながら生きる世界。そして、二度と生まれ変わる必要がなく、絶対の自由と幸福、歓喜の中で安住する世界。これらの世界はいずれも、わたしたち人間の世界よりも、より素晴らしい世界なのだ。

もし、そういった世界へ生まれ変われるものならば、だれでも生まれ変わってみたいと思うに違いない。そのためには、どのようにしたらいいのだろうか。果たして、そのための方法はあるのだろうか。あるいは、今この瞬間にそういった世界をのぞいてみることはできないのだろうか。

このような、わたしたちの願いを可能にするもの、それがオウム真理教の修行なのである。

・だれにでもできる

「修行だなんて、つらそうでいやだよ。」
「時間もないし。」
「面倒くさいや。」

と、思われる方もいらっしゃるかもしれない。確かに、日本のお寺さんの修行などを見ると、何年、何十年とそういった生活をして暮らしているが、どうもこれといった体験を積んでいるように見えない。解脱(げだつ)した、悟ったというお坊さんが現われたという話も聞かない。

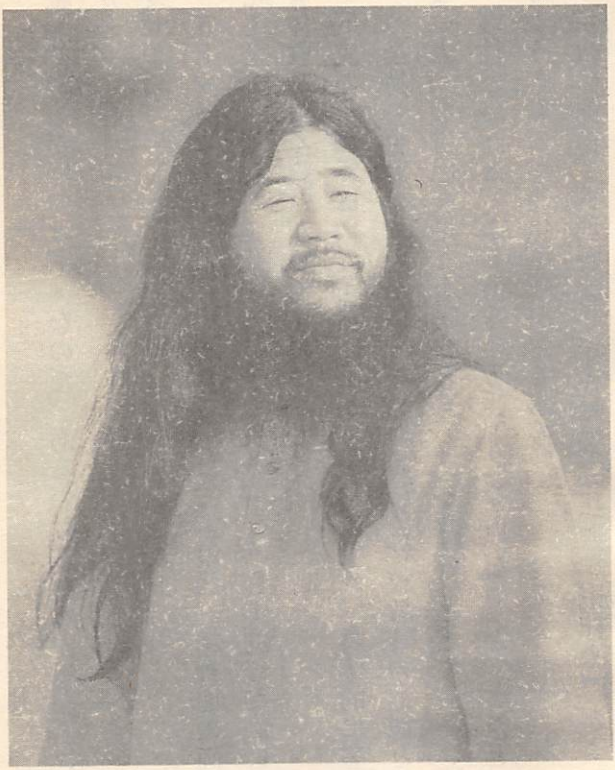
しかし、オウム真理教の修行の特徴は、だれにでもできて、しかも速やかに結果が出せることなのだ。冒頭に紹介した体験談は、決して何年も修行を積んだ特

別な人たちのものではない。いや、それどころか、ほんの一カ月、一週間、中には三、四日間程度の修行の経験しかない人たちのものなのである。

なぜ、それが可能になるのだろう。それは、オウム真理教には真に解脱・悟りに到達した、つまりすべてを知り尽くしたグル（宗教上の指導者）が存在し、その教えが存在し、そして「イニシエーション」といわれる高度な秘儀の伝授が行なわれるからである。いうまでもなく、そのグルとは日本でただ一人の最終解脱者、麻原彰晃尊師であり、そのイニシエーションの最高のものの一つが「シャクティーパット」なのである。

・お寺じゃダメ

これは、「どうして、お寺や他の修行では結果が出ないのだろうか」という解答でもある。つまり、人間が本当に高い世界へ到達したり、生まれ変わったりするためには、漢文のわけのわからないお経を読んでいたり、



「無だ。」
といって座っているだけではダメなのだ。あるいは、いろいろなエゴや欲望を内に秘めながら、
「隣人を愛せよ。」
などといってもダメなのである。大切なことは、霊性面、精神面の両面にわたって、身も心も正しく浄化、強化することであり、そうして初めて高い世界と通じ、夢のような体験を得ることができるのである。

一般に、既成の宗教ではこの精神面ばかりが強調され、具体的に霊性を向上させるシステムを持ち合わせていない。そのために、学校教育の道徳とどこが違うかわからないような自己満足とも曖昧ともいえる教えにとどまっているものが多い。一方、霊性というと、よくあるオカルト的な占いだとか、霊だとかという子供だましのようなものが連想されがちである。

しかし、仏教の開祖、真理勝者サキャ神賢（釈迦牟尼如来）がよいお手本で

あるが、サキャ神賢は今のお坊さんたちのように、ただ座ってわけのわからないお経を唱えていたわけではない。霊性と心の両面の浄化・強化を行ない、解脱・悟りを得たのである。

●絶対必要なイニシエーション

さて、そこでイニシエーションである。わたしたちが自己流でいきなり修行を始めたとしても、なかなか結果は出てこない。また、仮に何か体験したとしても、その体験の意味を正確に理解し、それが自己にプラスとなるものなのか、そうではないのか、それが自分を幸福にする方向を指しているのかなど、知ることはできない。例えば、偶然異次元の世界へ飛んだのはよいが、そこは地獄や餓鬼の世界で、そこから抜け出せなくなり、大変怖い思いをするといったことだってよくあるのだ。

このような問題を解決し、わたしたちを人間の世界より上の世界へ安全、確実

に導いてくれるのが、このイニシエーションなのである。それはなぜだろうか。

よく、

「グルなしには解脱・悟りはあり得ない。」

といわれる。それは、最終地点に到達した者のみが、その途上にある修行者に正確に道を指し示すことができ、そしてそこまで導く力を持っているということである。イニシエーションとは、そのための秘儀の伝授を指し、グルつまり解脱者が自己の培った神聖な高い世界のエネルギー、つまり高い霊的データを修行者に注ぎ込み、その修行者の修行ステージを一気に引き上げることである。これによって、わたしたちは十年、二十年あるいは一生かけてやっと得られるような体験を瞬時に体験することが可能となるのである。加えて、真のイニシエーションは、高い世界の魂の精神状態、つまり高度な精神性の伝授でもあるため、修行者の心の成熟をもたらす効果もあるのだ。

結論からいえば、イニシエーションなしには、わたしたちが本当の高い、素晴

らしい異次元の世界を経験することは不可能なのである。

・イニシエーションの王、シャクティーパット

このイニシエーションには、解脱者のエネルギーを移入する上で様々な方法がある。大きく、それは直接のもの、間接のものの二つのタイプに分けられる。

間接のものとしては、例えばグルが果物や水といったものに自己のエネルギーを込め、それを修行者が口にするというもの、あるいは霊的な力を込めやすい石やセラミックスなどにエネルギーを込め、それを修行者が身につけることなどである。

直接のものとしては、文字どおりグルが修行者の頭など、身に直接触れる形であるいは触れないまでも、ごく近い距離からエネルギーを注ぐものである。

さて、本書のテーマとなっているシャクティーパットとは、この直接のイニシエーションのまさに最高の部類に位置づけられるものである。

ざっと、そのプロセスをご紹介すると、シャクティーパットを受ける者は、ヨーガでいう「シャヴァアーサナ」――心身を完全にリラックスさせたポーズで仰向けになる。そして、解脱者は、その者のアージュニァー・チァクラ（眉間のところにあるチァクラ）に指を置き、エネルギーを移入していくのである。

冒頭にもご紹介したとおり、霊性と精神性の向上の上での効果には素晴らしいものがある。その中でも見逃せないのが、「クンダリニー」の覚醒をもたらすということである。

二　クンダリニーが覚醒し、人間を超える

・神秘のエネルギー、クンダリニー

クンダリニーとは、いったい何か。これは、わたしたちの尾てい骨に眠る霊的なエネルギーで、わたしたちが真に人間の世界を超えるような修行を志さない限り、にわかにはその存在すら認められないものである。当然、医学的にその存在が認められているわけではない。しかし、インド・ヨーガや密教では常識であり、エジプトの古代遺跡のレリーフなどにも、ヘビの象徴によってクンダリニーの存在が示されている。また、真理勝者サキャ神賢が解脱のプロセスとして説き示した「十二の条件生起の段階（十二縁起の法）」の中にも、実はこのクンダリニーの覚醒のことが出ているのである。

このクンダリニーが覚醒すると、そのエネルギーはスシュムナー管と呼ばれる

ナーディー――背骨を通って頭まで通じる霊的なエネルギーの通り道を上昇し、やはり霊的なセンターであるチャクラを貫き、頭頂にまで至る。一見これは、仙道でいう気と混同されがちだが、イコール気ではない。もっと根源的な宇宙エネルギーといえるものである。このクンダリニーの覚醒を第一歩として、人間を超えた様々な神通力（超能力）の獲得、そして最終的な解脱・悟りがあるのである。

ところが、これほど素晴らしいクンダリニーなのだが、普通はいくら一人で熱心に修行しても、一生かかっても覚醒しない。ところが、このシャクティーパットは、いとも簡単にクンダリニーを覚醒させてしまうのである。

麻原彰晃尊師のベストセラーとして知られる『超能力秘密の開発法』（オウム出版）には、シャクティーパットによって、このクンダリニーが覚醒する様子が麻原尊師の目からどのように見えるかが述べられている。大変興味深いところなので、ここに引用しよう。

クンダリニー。信じ難いが、あなたの中にも神秘のエネルギーが眠っているのだ（図はクンダリニーを象徴するエジプトのヘビのレリーフ）。

・クンダリニーの覚醒はこのように見える

「相手のクンダリニーが覚醒していく様子は、霊眼で見ている。まず、相手の眉間に当てたわたしの親指から白銀色の光がスシュムナー管（クンダリニーの通り道）を通って尾てい骨のムーラダーラ・チャクラまで降りていく。これを三回ほど繰り返すと、光はパッと消えてしまう。これは、スシュムナーにクンダリニーの通り道ができたことを意味する。

さらにシャクティーパットを続けていると、小さな豆粒ほどの赤い点が相手のムーラダーラ・チャクラに四点くらい見え始める。このとき、わたしのムーラダーラ・チャクラも呼応してむずがゆくなる。それらの点は初めは離れて見えるのだが、やがて一カ所に集まり、逆三角形を作る。そのとき、わたしのムーラダーラ・チャクラは熱くなる。三角形は次第に大きくなり、骨盤ほどの大きさにまでなる。わたしのムーラダーラ・チャクラはいっそう熱くなり、エネルギーが上へと昇り始める。同時に相手の赤いクンダリニーも上へ昇り始めて、それがわたしの親指

のところにまで到達すると、相手の身体全体が赤く見えるようになる。これで第一回目のシャクティーパットは終了である。たいていこれでクンダリニーの覚醒も終了する。シャクティーパットを受けた人は以後超能力をどんどん獲得していくことができるのである。」

・一つ間違えば破滅の道

一口にクンダリニーの覚醒といっても、それは同時に大変な危険も伴っている。何しろ、霊的に、肉体的に、あるいは精神的にわたしたちが人間としての秩序を崩壊させ、神々と同等の存在と化し、最終的には解脱・悟りを得ていくのであるから、一つ間違えばその人を逆に狂人・廃人にしかねないのだ。実際、自己流でクンダリニーの覚醒に成功したが、その後肉体を傷めてしまったり、精神に異常をきたしてしまったという例は決して少なくない。それこそ、そんな修行しなければよかったということになってしまうのだ。

ところが、このシャクティーパットの素晴らしさは、それを全く安全に、かつ瞬時に可能にしてしまうことなのである。そして、多くの者が、それ以後この現実世界に全く魅力を感じなくなってしまうような、素晴らしい神秘的な体験や心の体験を味わっていくのである。

このような形で、クンダリニーの覚醒に成功したオウム真理教の修行者はおそらく数百あるいは、何千名にも上るであろう。

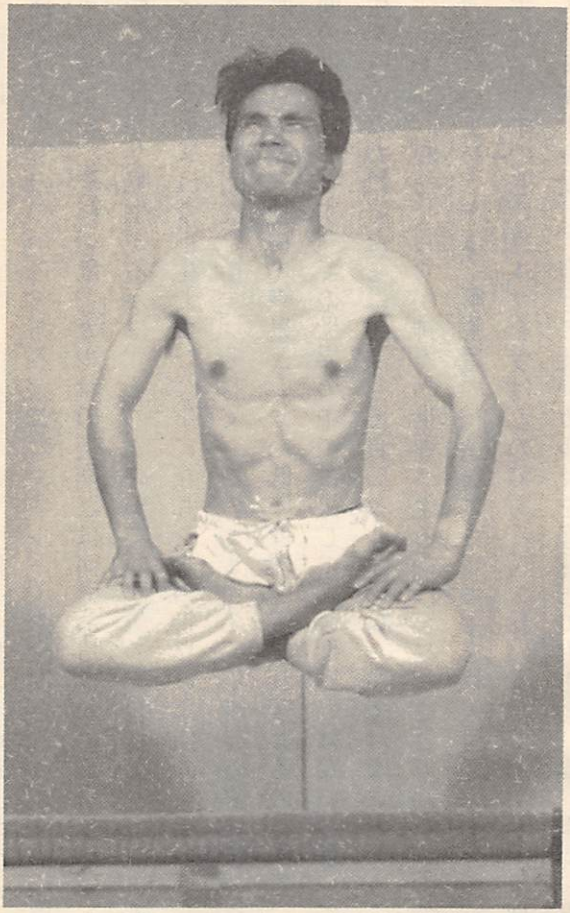
・だれにでもできるものではない

「ということは、M教などの〝手かざし〟と同じかな。」

と思われる方がいたら、それは大変な誤解である。また、

「わたしはいろいろと霊的な体験をしているから、一つ親友にでも、このシャクティーパットをしてやろう。」

と考える方がいるとしたら、それは非常に危険である。



空中浮揚。これもクンダリニー覚醒が生む超能力だ。

なぜならば、このシャクティーパットは、受け手と施し手の双方にエネルギーの交換が起こるものだからである。このエネルギーの交換とはカルマの交換と言い換えてもよい。それでは、カルマの交換とは何であろうか。

魂がどの世界へ転生するかは、その人の善業と悪業の割合によって決まる。カルマとは、そのような前生および今生になした身の行ない、口の行ない、心の働きの蓄積および傾向性を指す。そして、このカルマのいい魂ほど高い世界へ転生し、悪い魂は地獄・動物・餓鬼といった低い世界へ生まれ変わるのである。

人間の世界とは、すべての世界の中では決して高い世界ではない。よって、そこに生を受けたわたしたちは、決して良いカルマの持ち主ではないということである。よって、わたしたちが神々の世界へ至るのは容易なことではないのである。

シャクティーパットは、解脱者の神聖なエネルギーを移入する。と、同時に、施し手は受け手の悪いカルマを受けるのである。これによって、受け手は高い世界のエネルギーを受け、自己の悪いカルマを浄化してもらい、高い世界へと通じ、

神秘的な体験や心の成熟を進めることができるのである。

ところが、もし施し手がステージが低ければ、それは高い世界のエネルギーを受け手に注ぐことができないというだけではなく、受け手の悪いカルマを受け、その後そのカルマに翻弄されなければならなくなるのだ。

普通の人は、自己のカルマに翻弄された状態である。まして、他人のものを背負ったときには、自分ではコントロール不能なほどの煩悩的なデータに巻き込まれ、心身ともに異常をきたしてしまうことは容易に推測できよう。

よって、オウム真理教では、煩悩を止滅する境地、つまり仏典でいう「阿羅漢（あらはん）」という境地に至ってはじめてシャクティーパットをなすことが許されるのである。それでも、シャクティーパットを施すことは過酷な修行である。それは、結局このシャクティーパットが自己の生命エネルギーを与え続けているからなのである（詳しくは第四章参照）。

それほど、このイニシエーションは高度なレベルが要求されるものなのだ。だ

からこそ、クンダリニーを覚醒させたり、一気に心をチェンジさせてしまったりと、その効果も大きいのである。

・オウム真理教にのみ存在するイニシエーション

「そのころ読んだ本の中で、特にわたしが興味を覚えたのは、弟子たちに直接エネルギーを注入し、自らが厳しい修行で得た体験をそっくりそのまま授けるシャクティーパット・ディークシャーという儀式についてでした。インドの奥地にその秘儀を伝授することのできる聖者が住んでいると書かれてあり、わたしは、もしそんな尊い聖者の弟子になれたら素晴らしいだろうなあと、夢のようなことを考えていました。

そんな折、日本でそのシャクティーパットを行なうことができるという人物が現われたのです。果たして本物だろうか？　わたしは最初素直にそれを信じることができませんでした。というのも、インドでさえそういう聖者に巡り合えるの

は非常に稀なことだと聞いていましたし、まさか日本にそういう方がいらっしゃるなどとは思ってもみないことだったからです。」

これは、麻原尊師の弟子の一人、ウルヴェーラ・カッサパ師の入信当時の話であるが、この中にもあるとおり、現在公にシャクティーパットが行なわれているところは世界中探しても存在しない。もちろん、過去にインドのヨーガ修行者たちがやっていたという記録はあるが、あくまでも過去の話である。また、今も伝説的にインドの山奥の聖者がやっているという記述があるが、わたしたちがそのような形でシャクティーパットを受けるのは不可能に近い。また、一部にはシャクティーパットと称して行なっている人物もいるようだが、それはあくまでもほんの軽く頭に触れる程度のものである。

オウム真理教のシャクティーパットは、一人につき平均十分の時間をかけ、その間解脱者は絶え間なく神聖なエネルギーを注ぎ込む。このような方法で、しかも多くの人が受けられる形でシャクティーパットが行なわれているのは、オウム

真理教だけである。

・人間を超えた者たちがなすシャクティーパット

それでは、オウム真理教でシャクティーパットを行なっている者のステージとはどのようなものなのかを簡単にご紹介しよう（ただし、麻原彰晃尊師については既に周知のことであるため省略する）。

まずは、尊師の最も古い弟子の一人である、マハー・ケイマ正大師（せいたいし）である。マハー・ケイマ正大師のステージは早くから認められており、クンダリニー・ヨーガの成就以前に訪れたインドでも、多くの聖者たちから解脱が近いといわれていた。そして、八七年クンダリニー・ヨーガを成就、そして八八年五月には個人の修行の完成のステージとされるマハー・ムドラーを成就し、仏典でいう阿羅漢の位に到達された。そして、その成就とともに行なわれた「水中エアータイト・サマディ」という解脱者の証明実験において、なんと十二時間連続の無呼吸状態と

いう、まさに人間を超えた究極の瞑想状態（サマディ）を達成されたのである（詳細は、オウム出版刊『麻原彰晃のザ・サマディ』を参照）。

次に、ヤソーダラー正大師である。ヤソーダラー正大師は、本格的な修行に入ってわずか約一年でこの阿羅漢の境地に到達。その修行中も含めて数々の未来予知を適中させるなど、いかんなく神通力を発揮されるとともに、高度な瞑想ステージを体験される。そのほんの一例が次の体験談である。

「極厳修行が始まって二日後、究竟（くきょう）の瞑想中に意識を空間に固定することを覚えました。青い空間があったので、そこに入ってみたのです。その瞬間、意識は空間いっぱいに広がりました。雑念は全くなく、深く入って集中し続けることができました。意識が空間いっぱいに広がったまま集中できるというのは、体験してみないとわからないことでしょう。ただ、不思議なことに、意識は同時に現実レベルにもあるのでした。つまり、深く集中しながら、現実をも冷静に把握しているのです。

尊師が、

『それは、八勝境（はっしょうきょう）の中の第五勝境の段階だ。』
と教えてくださいました。」

そして、今年（九一年）十二月よりシャクティーパットを始められるマイトレーヤ正悟師である。八九年十二月マハー・ムドラーを成就し、個の修行の完成を遂げたマイトレーヤ正悟師（せいごし）は、今年九一年十一月、常人ならば三日間で酸素欠乏により死に至るという地中の密閉空間の中で、実に五日間のサマディに入り、無事生還するという奇跡を成功させておられる。

これが、オウム真理教でシャクティーパットを行なう修行者のステージなのである。

・ガンで死ぬ「手かざし」とは違う

ところが、既に有名になった某宗教団体の「手かざし」とは、わずか三日間の研修を受ければOKというものである。だが、行なわれていることは確実にカル

人間を超えて初めて、シャクティー
パットをなすことができる。

マの交換を伴っており、その怖さを知らないとはいえ、あまりにも危険なことが行なわれているといえる。

かつて「手かざし」をやっていたという人に聞くと、ある道場長がガンで亡くなったり、あるいは肝臓を悪くして亡くなった例というのがあるそうである。それもさほど高齢でもない人が。

このように、シャクティーパットをはじめとするイニシエーションは、だれにでもできるものではない。それは、完全に煩悩を止滅し、自己の修行を完成させた者のみができる神聖な秘儀伝授なのである。興味本位で「やってみよう」というまねは、決してしないようにしてほしい。

よって、このイニシエーションを行なうことができるのは、世界広しといえどもオウム真理教だけなのである。そして、このようなイニシエーションを可能にし、人々に真の霊性の向上、心の成熟をもたらす団体であってはじめて、真の宗教団体と呼ぶことができるのである。

●内的五感を呼び覚ます、神秘のエネルギー

◎万華鏡のような世界に没入

目をつぶると、初め黒い丸が右上から左下へ落ちていきました。次に、緑や青、白、黄などの丸が見えました。そのころから、足がしびれて感覚がなくなってきました。

最後の方になると、青や緑や黄などの空間が、次々と変わっていきました。どんな色になっても、真ん中に白い道みたいなのが一本ありました。

とても綺麗でした。

（和歌山県和歌山市　E・N　十五歳）

◎強烈なエネルギーに我を忘れて

シャクティーパットが始まった数分後、呼吸が軽く乱れ、手のひらが少ししびれた。

その後、後頭部辺りから熱風が出だして、オレンジ色のような色が目の中で稲妻のようにピカピカと数回見えた。

心の中で「もっとエネルギーを入れてください」と唱えると、ほんとに強烈に入ってきて、声を抑えることができず、恥ずかしさも忘れて声を上げてしまった。

（徳島県徳島市　K・M　三十二歳）

◎美しいヴィジョンにうっとり

目前に白銀色に輝く、四角い大きな板状のものが現われ、そのうちに金色に変わり、それがいつの間にか厚手の絹のような感じで、美しい光沢をした濃いブルーの長い布に変わっていました。その上に実に精巧で、かわいく、

美しい、綺麗な透かし彫り等の金細工がいくつも並べられており、これらが眼前をゆっくりと流れるように移動していくのです。皆、一つ一つ造りも形も模様も異なっています。美しい、実に美しい、これはいったい何なのだろうかと思いながら眺めていました。

とても安らいだ、静かで充実した至福感を、柔らかな白っぽい空間の中で満喫させていただきました。

（東京都文京区　K・M　五十四歳）

◎駆け上るクンダリニー

ヤソーダラー正悟師の指がわたしの額に載せられ、ゆっくりと回転を始めた。しばらくすると、下腹から強い圧力が上り初め、腹部のバンダ（引き締め）が自動的に起こり、手足がバタバタ震え出し、その圧力は胸から頭頂へ上がった。…（略）…

今度はスシュムナー管の中を、まるでジュースがストローの中をピューッと通過するようにクンダリニーが駆け上がり（頭頂を）刺激した。それが四、五回繰り返されたとき、ベルが鳴った。

十分がとても長く感じられた。体は熱く、額には汗が吹き出し、頭はボーッとし、心は満足感にひたっていた。

（兵庫県尼崎市　M・N　四十一歳）

◎暗性のわたしにも体験が

六、七分は何もなく、ヤソーダラー正悟師にも「タマス（暗性）傾向ですね」と言われ、常々感じていたことを改めて自覚しました。

それでもそのうちに背骨を気泡が上がっていく感覚があり、正悟師にも「熱くなってきましたね」「明るくなってきた」と言われ、「そうかなあ?」と思いつつもうれしかったです。…(略)…

わたしは以前から道場にあまり通っていなかったのですが、それはシャクティーパットの最中に見破られてしまいました。

(東京都江東区　K・I　二十五歳)

◎寝たままで起きたダルドリー

(シャクティーパット中、仰向けに寝たまま)ダルドリー・シッディ(体が跳ねる現象、空中浮揚の前段階)が起き、最初腰の辺りを中心に跳ねていましたが、徐々に背中、肩と上がっていき、背中が熱くなり、最後には息が荒くなり首がのけぞりました。…(略)…

そして、一時的な享楽を求めるよりも心を成熟させようという気持ちが少し出てきました。

(神奈川県横浜市　M・Y　三十八歳)

◎成就の状態を垣間見た

しばらくすると、(目はつぶったままですが)視界が明るくなってきました。そして、紫色(あるいは薄い青)が見え続けたのを覚えています。そのとき正悟師から「光に包まれているでしょう」と言われました。そういえば、なんだかホワーンとしていい気持ちです。エネルギーが入っていることが実感できました。…(略)…

またしばらくすると、尾てい骨に熱くドロ

ドロしたものが現われました。全身は至福感に満たされ、本当に幸せな状態が訪れました。こんな幸せは生まれてこの方、一度も味わったことがありませんでした。「これがシヴァ大神のエネルギーなのか」、わたしはシヴァ大神と偉大なグルの素晴らしさをより深く理解することができました。…(略)…

(終了後は)心はピタリと静止して、全く揺れないのです。そして、すべてをありのままに見つめることができるようになるなど、今までとは心の状態が全く変わりました。「これが高い成就の心の状態なのかな」——その状態を垣間見たような気がします。

(東京都新宿区　H・K　十七歳)

◎解脱したい!

よく「苦楽を越えたところに彼岸がある」といいますけれど、今までは「彼岸」がどういうものか全くわからないから、「楽の裏に苦があるのはしょうがない」などと思っていて、そこへ「行きたい!」とはあまり思わなかったのに、シャクティーパットによって一時的にでもその足がかりを得られて、「解脱はもっとすごい、マハー・ニルヴァーナは、それこそどんな条件でも絶対壊れない至福なんだ」と考えるようになりました。すると、今までになく、早く自由になりたい、すべてから解放されたいと思うようになりました。

(埼玉県行田市　T・S　二十二歳)

第二章

解剖——そのとき何が起こっているのか

一　世界が認めた聖なる儀式

・ニューヨークで証明された奇跡

「グルグルグル――わたしの手が力強く回る。ニューヨーク支部で初めてのシャクティーパット。ここで超常体験をさせられなかったら、わたしの世界救済は失敗に終わってしまうだろう。

わたしがシャクティーパットを施している相手は、入信間もない、修行経験の全くない女性セーラ。日本でもS社のCMなどに出演している、有名な美人モデルである。わたしとセーラの周囲では、スタッフを含め五十五名もの人々が、息をつめてじっと見守っている。

ニューヨークでの具体的な布教活動の第一歩ともいえるこのシャクティーパットには、三十分という長い時間が取られた。これは、通常日本で行なわれている

シャクティーパットの三倍の時間に当たる。失敗は許されない。わたしは全神経を集中させた。

わたしは、シャクティーパットを自分一人の力でやってるわけではない。わたしの指を通じて、遠い過去からの多くの成就者のデータを、相手に移入させていただいているのである。グル・シヴァ大神、ティローパ、ナローパ、マルパ、ミラレパ、パドマサンバヴァ、真理勝者サキャ神賢（釈迦牟尼如来）、パタンジャリ、スワミ・ヨーゲシヴァラナンダ……、多くの成就者たちがわたしのシャクティーパットを助けてくれているわけである。

わたしはこの成就者たちのデータを、セーラに入れ続けた。それとともに、わたしの身体が発している白銀・黄金・青紫の光のエネルギーも、どんどん彼女に注ぎ込まれていく。

白銀のエネルギーは偉大な救世主、黄金のエネルギーは高い精神的成就者、青紫は強い信仰心を含んだ高い霊性を示している。

彼女のチャクラが、ムーラダーラ・チャクラ、スヴァディスターナ・チャクラ、マニプーラ・チャクラ、アナハタ・チャクラ……と順次浄化されていくのが霊視できた。反対に、彼女の煩悩のエネルギーはわたしに移ってきている。

このようにして、何回かわたしと彼女との間でエネルギー交換が行なわれた後、今度は彼女のエレメントが浄化され始めた。

黄色いエネルギーである地のエレメントが浄化され、次にスカイブルーの水のエレメントが浄化された。さらに赤い火のエレメント、緑の風エレメントが浄化されたとき、シャクティーパットの時間が終了したことを告げられた。

まだ、『十分くらい経ったかな』と思っていたときのことだった。集中していたので時間の経過が全くわからなかったらしい。もう少し時間があったなら、最後の空エレメントの浄化もできたかもしれなかった。これができたら、彼女は三昧に入れたのだ。

シャクティーパットは成功した。」

固唾を飲んで見守るアメリカ人の前で、神秘のイニシエーションは行なわれた。

・プレッシャーをはねのけて

この章では、さらにシャクティーパットの神秘性と素晴らしさについて見ていくことにしよう。

初めに紹介したのは、麻原尊師が八八年六月にアメリカ・ニューヨークにおいて、アメリカ人たちのために特別に行なったシャクティーパットのデモンストレーションの様子である。オウム真理教の真理をいかにしたらアメリカ人たちに伝えられるか、そのために行なわれたのが、このシャクティーパットであった。しかし、このシャクティーパットにはかなりのプレッシャーがかかっていたことも事実であった。

「シャクティーパットの公開が決まったものの、わたしには一抹の不安があった。それは、わたしが今まで日本人以外にシャクティーパットを行なったことが、一回しかなかったからである。しかも、その一回というのは、もう二年以上も前に、

インドでドイツ人のヨーガ行者に行なったものなのだ。

日本人に比べて、アメリカ人は煩悩が強い。これは別に偏見でも何でもなく、握手をしただけでもそれを感じたし、空間のエネルギーからもそれがわかるのである。

その煩悩の多いアメリカ人相手に、シャクティーパットをして超常体験をさせるというのは、ちょっと考えただけでも大変なこととは容易に想像がつくのであった。そして、もし失敗したなら、オウム真理教の信用はガタ落ちになるだろうし、もちろん救済もストップしてしまうだろう。

それだけでなく、すでにニューヨークにはシャクティーパットを行なっている人物がいるということも、わたしを不安にさせる一因であった。シャクティーパットを行なっているのは、数年前に亡くなったムクタナンダというインドのヨーガ行者の一番弟子であった、グル・マイと呼ばれる女性である。少なくとも、彼女以上のシャクティーパットを見せなくては、決してニューヨークで認められることはないだろう。彼女を超えなければならないのだ。」

・ドアを通り抜けると金色の世界

しかし、この尊師の不安は杞憂に終わり、シャクティーパットは見事な奇跡を示したのであった。尊師からシャクティーパットを受けたセーラ・ジョンソンは、以下のような体験談を寄せている。

「今日、麻原尊師にシャクティーパットをしていただきました。その体験を皆さんにお話ししたいと思います。

わたしは入会してまだ日が浅く、クラスに数回出席しただけでした。だから、シャクティーパットの体験者に選ばれたのは幸運でした。

シャクティーパットを受けている間、わたしには、多くの影の中に紫のエネルギーが飛び回り、ときどきそれと白銀が交ざるのが見えました。

今思い出したのですが、紫の前には美しい緑色が見えていました。そのエネルギーはとても気持ちの良いものでした。

その後、わたしはいくつかのドアのヴィジョンを見ました。そして、昔の人工的に着色したカラー写真のように見えるドアを通り抜けました。ドアを通り抜けると、そこは濃い金色の世界で、多くの影がありました。そして、わたしの中の何かが出てきて流れていきました。

終わりの方になると、胸とおなかの上部に大変気持ちの良い重みを感じました。そして、わたしは起き上がるように言われました（本当はあまり起き上がりたくなく、そのままでいたかったのですが）。

強いエネルギーと胸から解き放たれた何かが、上昇するのではなく外に向かって出ていくようでした。安らぎも感じました。しかし、それにも増して、わたしは強いエネルギーを感じ、自分自身がとても堅固になっているような気がしました。」

・肉体からも周囲の世界からも分離した

もう一人、尊師からシャクティーパットを受けたエリック・ジョンソンの話。

「シャクティーパットを受けた直後、わたしは麻原尊師がこすられたアージュニァー・チァクラのところに、冷たさと穴が開いたような感覚を覚えました。同時に、胸の辺りに強く上昇するような感覚がありました。

シャクティーパットの後、妻がレストランでわたしを待っていました。わたしは道場を離れたいという気が全然なかったのですが、妻の望みに応じることにしました。

レストランへと向かって歩いている間、自分が肉体からも周囲の世界からも分離しているかのように感じました。この感覚は、わたしがお気に入りのレストランに着き、妻の友人たちに会ったときいっそう強くなりました。すぐに、中の二人の男性がわたしにあいさつしようと手を差し出してきました。

なるべくそっと、その手を握ろうとしましたが、それでも気が進みません。わたしは自分がここにいられないんだということを悟り、オウムの道場に帰って食事を取りました。そして、しばらく経ってから、妻に再び会ったのでした。」

奇跡を体験したセーラ、ガイ、エリック。シャクティーパットが暗示でも催眠術でもないことが証明された。

・三百パウンドも悪いエネルギーが出た

さらに、「わたしの弟子がすでに高レベルに到達していることを示す」ためにということで、同時にシャクティーパットを行なったマハー・ケイマ正大師のシャクティーパットを受けたガイ・セディタも次のような体験を報告している。

「わたしは、シャクティーパットのエネルギー移入を受けるために、修行に打ち込んできました。そのイベント（勉強会）の前夜、尊師から自分がケイマ大師（尊師の一番弟子）のシャクティーパットを受けるということを知らされました。尊師もシャクティーパットの場にいらっしゃいました。わたしは強い快感を覚え、優しく包まれたような感覚に浸りました。

ブルーの光が見え出し、突然わたしは三昧に入りました（それは深い虚空でした）。その状態から戻ったとき、わたしはまるで次元を突き抜けたかのように感じ、また体が大変軽くなって、まるで三百パウンドもの悪いエネルギーが体外に出た

かのようでした。

起き上がった後、わたしは浄化されて強い透視能力が得られたように感じました。」

・インドの聖者も花輪で祝福

このシャクティーパットには、いろいろな意味が含まれている。まず、修行経験のないセーラが超常体験をしたことである。これは、シャクティーパットだけで霊性が高められ、様々な体験ができるということの素晴らしい証明である。

次に、彼らが皆アメリカ人だということも心に留めておかなければならない。つまり、言葉も習慣も違う相手だということだ。この相手にシャクティーパットが有効であったということは、シャクティーパットが暗示でも催眠術でもないということを明らかにしているのである。

また、この麻原尊師の話に出てくる、「二年前のインド」の話についても触れ

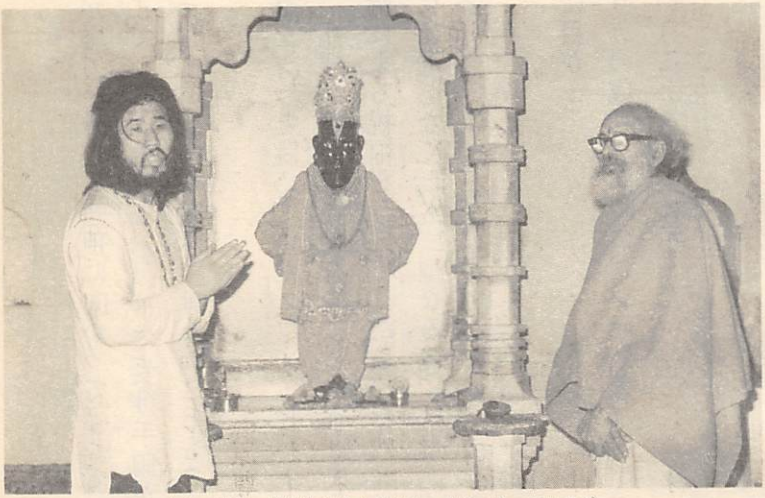
ておこう。引用は、『麻原彰晃の聖者誕生』（オウム出版）からである。

「ラーマ・クリシュナ寺院で会ったスワミ・ビハール・マハラジは、七年間アーサナと瞑想を続けて解脱を得た方である。この方は麻原尊師に特別な瞑想法を伝授してくださったが、この際、スワミから紹介されたドイツ人青年に麻原尊師がシャクティーパット（解脱者が直接相手の体に触れてエネルギー移入を行なうもので、イニシエーションの中でも最高の部類に入るもの）を施されるのを見て大変感激されていた。

常々から『シャクティーパットの効果は一種の暗示ではないか』との疑いの声を耳にしていた麻原尊師。ある種、実験のつもりでこのドイツ人青年に何も告げずにシャクティーパットを施してみようと考えられたわけである。

その結果は、

『虹色の光が見えました。ものすごく心地よくなって、身体が動かなくなってし



導師に花輪の祝福を与えたスワミ・ビハール・マハラジ。

まった。エネルギーが尾てい骨から頭頂に向かって昇っていきました。』

彼の言葉は、これまでシャクティーパットで受け手側が語っている体験そのままであり、シャクティーパットが暗示ではないこともここで証明されたわけである。

ところで、一部始終をジッと眺めていたスワミ・ビハール・マハラジは、この出来事にいたく感動。礼拝を終えて寺院を後にしようとする麻原尊師をわざわざ追いかけてきて、花輪による祝福を与えてくださった。

言葉はストレートには通じなくとも、聖なる魂にはヴァイブレーションですべてが通じるのだろう。」

●思わず金髪の女性に目が……

しかし、このアメリカの成功は同時に、シャクティーパットには特有のカルマ交換が生じているということを如実に示した。

「一方、ケイマ大師の方はどうだったのだろうか？　シャクティーパットによって、ガイとカルマの交換が行なわれたのだ。わたしは彼女の心身の変化を心配した。

彼女は次のように述べている。

『シャクティーパット中は、自分の身体がエネルギーを発するので非常に明るく、そのエネルギーが流れるように一気にガイに入っていくのがわかりました。十五分くらい経ったころでしょうか、途中で一回意識が途切れてアストラル世界へ飛んでしまいました。気がつくと手の位置が眉間からずれていたので、いけないと思って元の位置に戻しました。

終わった後、しばらくして急に気力がなくなってしまいました。とても眠くなり、タマスの状態になってしまったようです。疲れたのでシャヴァアーサナをしていると、動物のヴィジョンが見えました。動物と動物を掛け合わせて、変な動物ができるものでした。

その後、ネコのヴィジョンが見えました。わたしはそのネコと話をしました。後でガイに聞いてみると、彼はよくネコと話をするのだそうです。』

その後、彼女はガイのカルマの影響をいっそう強く受け始めた。

『食欲・性欲が出てきて、ものすごく眠くなり、睡眠を長くとるようになりました。〝怒り〟も出てきて、イライラするようになりました。ささいなことでも怒りが出てきてしまうのです。

浄化法でダウティをしても、真っ黄色な胆汁が出てくるのです。わたしはもともとタマス傾向なので、粘液が出てくることはありましたが、胆汁が出たのはこれが初めてのことでした。』

彼女が言っている胆汁は、ラジャス（動性）傾向のときに出るものなので、ガイのカルマのせいであることはいうまでもない。

また彼女は、ガイにシャクティーパットをした翌日から、外的なものに目を奪われ始めたそうだ。街に出れば、女性にまず目がいき、美しい人を探すようになっ

たという。これもガイのカルマの影響で、ケイマ大師によると、ガイは金髪で派手な女性が好きらしい。

シャクティーパットは怖いものである。相手のステージを上げるためにカルマの交換を行ない、こんなにも相手のカルマの影響を受けてしまうのだから。

ケイマ大師は、身体の浄化法と瞑想によって、自分の中に入ったガイのカルマを消滅させることができた。

わたしの場合も、セーラへのシャクティーパットの後、気がドーンと下がってしまってひどい状態だった。日本人、三十人分ものカルマを受けたような気がした。」

二　マハー・ニルヴァーナへ続く神秘の道筋

・尊師のシャクティーパットの場合

麻原尊師のシャクティーパットは、八五年から八八年にかけて行なわれた。記録に残っているだけで八千回。もちろん、記録に残されていない状況でのものも相当数に上るので、その延べ数は計り知れないといってもいい。その間に、クンダリニーを覚醒させた者は数知れず、その他様々な神秘体験、心の浄化、精神的な安定といった素晴らしい恩恵がたくさんの人々に与えられた。

尊師によれば、シャクティーパットは当初もっぱらクンダリニーの覚醒に焦点を置いていたが、後期には高い世界へ結びつけることを主眼とされるようになったということである。ここで紹介したセーラへのシャクティーパットでもわかるように、シャクティーパットの最中、尊師は神聖な高い世界のエネルギーを降ろ

し、その世界へ受け手を結びつけるよう思念されるのである。八八年のインタビューから抜粋しよう。

「一般に、インドの聖者といわれる人でも、一生に数回しかシャクティーパットをしないといわれている。それほど、このイニシエーションは高度なのである。ここで尊師に、オウムのシャクティーパットについて語っていただいた。

（尊師） 例えば、今回カール・リンポチェ師（チベット仏教カギュ派総帥。故人）が来日なさったよね。しかし、カール・リンポチェ師のイニシエーションというのはダイレクトではないんだね。それから、エンライトしてたという、スワミ・ムクタナンダという人がいるんだよ。ニューヨークで活躍して、八十三年に亡くなったんだけどね。彼の場合は、二千人くらいまとめといて、パッパッパッパッと触っていく祝福（頭頂に手を触れてエネルギーを入れるイニシエーション。シャ

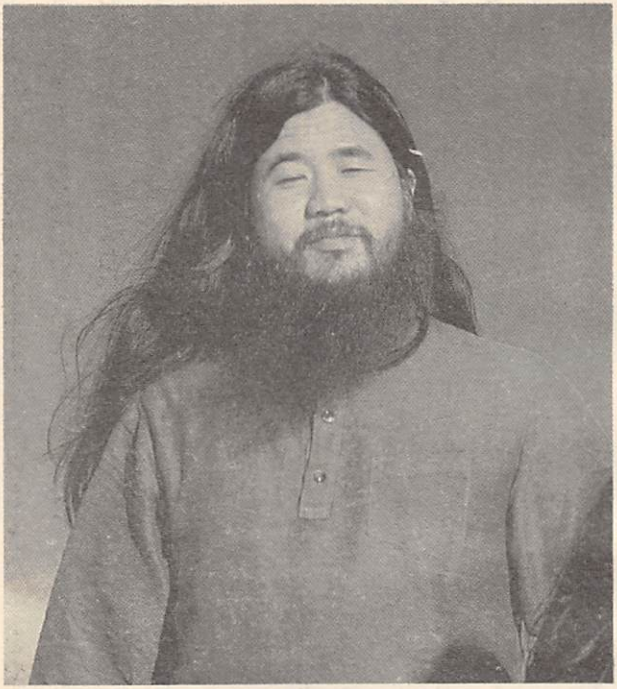
クティーパットより、所要時間もエネルギーの量も少ない）をやった。彼はこれをシャクティーパットと呼んでいるわけだ。オウムで言うシャクティーパットも、ちょっとはしているだろうけどね。

だから、オウムのシャクティーパットというのは、単なる霊的な世界への参入の儀式ではなくて、古典的な、相手を完全に成就させるためのエンパワーメント、エネルギー移入ということになるよね。

――では、その一人に投入されるエネルギーも全然違うということですね。

（尊師） それは全然違う。それから、わたしのシャクティーパットは、ある時期にタイプが変わったんだよね。それはどういうことかというと、以前はクンダリニーを上げることに主眼を置いていたんだけど、そうではなくて、高い世界と結びつけることに主眼を置くことに変えたんだよ。

それはなぜかというとね、以前にシャクティーパットを受けた人で魔境に入る人が多かったんだよ、エゴが強くなって魔境に入る人が。クンダリニーというの



は生命エネルギーだから、わたしが十年近く修行してきたエネルギーを移入されると、当然元気にもなるし、精力もついてくるし、それから意志も強くなるから、エゴは喜ぶよね。しかし、それを現世に使っちゃったら、もともとまだ借り物のエネルギーだから、当然魔境に入っていくよね。だから、ある時期からオウムのシャクティーパットは、イコール、コーザル・イニシエーションということができるくらいのことをやっているんだよ。

それは何かというと、わたしたちの偉大なる、絶対なる主宰神であられるシヴァ大神と、それと同等の力のおありになる、マハー・ニルヴァーナに住んでいらっしゃる魂というのかな、その方たちとつなぐと。あるいはマハー・ムドラー系統とか、ゾクチェン系統とか、あるいはアストラルのマニクラチュー系統とか、釈迦牟尼系統とか、あるいはインドの極上ヨーガのね、例えばパタンジャリ系統とかとつなぐためのシャクティーパットに変わったわけだね。

だから、最近のシャクティーパットは十分間と規定されていたわけだけども、

その十分間、すべて観想してるんだよ。単にエネルギーを入れているだけではなくて、相手を霊視しているだけではなくて、観想して、そして、相手に正しい真実のデータを放り込んであげると。で、その人が未来際において絶対に真理から離れないようにということで、わたしの知っている限りの真理と結びつけたと。だから、後半のシャクティーパットを受けている人たちは魔境には入らなかったんだよね。」

したがって、シャクティーパットはスタート当時よりも、より高度で安全確実にわたしたちを高い世界へ結びつけてくれるイニシエーションとなり、今日に至っているのである。

・至福感と光の体験

それに伴って、受ける側の感じも変わってきている。それはより深い、真に自

己を霊的、精神的に進化させるものとなっているのである。

「――では、当然受ける側としても、かなり感じは変わってくるということですか。

（尊師） そうだね。当然受ける側としても、感じ方は変わってきたね。以前は、熱あるいはエネルギーの上昇を中心に感じていた人が多かったけれど、最近では、至福感を感じたという人が多かったね。それから、もう一つは光、あとエクスタシーみたいなものだね。

（ミラレパ大師：当時。現在は正悟師） 視界が明るくなったという人がいましたね。色が見えるとか、そういうのではなくて、目の前が明るくなったという人はいましたね。

――昔は色が見える人が多かったようですね。

（尊師） その色というのは、アストラルだからね。そして、視界が明るくなると

いうのはコーザルだから。つまり、アストラル次元のシャクティーパットから、コーザル次元のシャクティーパットに変化したと考えていいんじゃないかな。

（ミラレパ大師） 中には感激して、泣き出す人もいらっしゃいます。男の方でも、終わった後に感激して、『最高だった』って言って、泣き出した人もいました。――それは真我に感応しているということなんですか。

（尊師） そうだね。真我に感応してるというか、コーザルに感応してるというかね。」

・マハー・ケイマ正大師に見るシャクティーパットの神秘

麻原尊師のシャクティーパットを引き継がれたのが、マハー・ケイマ正大師である。正大師は、八八年から八九年にかけて、合計千五百五十五回のシャクティーパットを行なわれている。

ここで興味深いのは、そのエネルギーの流れである。麻原尊師は、ご自身が直

接マハー・ニルヴァーナからの神聖なエネルギーを降ろされていたわけだが、弟子である正大師の場合、そのエネルギーは一度尊師を経由して自己を通し、受け手に注がれるのである。これはその後の、ヤソーダラー正大師もそうであり、今後もそうなのである。

マハー・ケイマ正大師の体験談を引用しよう。「シャクティーパットで相手に移入されるエネルギーは、決して自分のものではない。グルを意識することで自分にエネルギーが入り、それを相手に送るだけである」と正大師は言われる。

「シャクティーパット中に尊師から伝授された特殊な観想法を行なっていると、エネルギーが送られてきます。そして、辺りが光り輝いて、その透明な光が頭頂のサハスラーラ・チャクラから入ってくるんです。そして、いったんアナハタ・チャクラにそのエネルギーがたまって、自分の右手から出ていくんです。そのときには、相手の方が光っているんですよ、エネルギーが移入されていますから。

麻原尊師のシャクティーパットを受け継いだ、マハー・ケイマ正大師。

そして、シャクティーパットをしている途中にも、もちろんエネルギーは入れ替わっているんですが、その光のせいで自分が暗くなっているのはわからないんですね。だから、終わった後にドーッと暗くなっているのがわかるんです。

また、シャクティーパットをしているということは、尊師のエネルギーが自分に入っていますから、相手の状態がパッパッとわかりますね。シャクティーパット中にその人の前生が見えてしまったりとか、その人の来世がわかったりとか、例えばその人の病んでいる部分がわかったりとか、そういうこともありました。

それから、これは、心の変化に関連すると思うんですけれども、シャクティーパットの途中で、高い世界のエネルギーを受けるというのがどういうことかというのが、自分の身をもってわかってきた——と言ったらおこがましいけれども——尊師や高い世界のエネルギーが自分の中に入ってきたというのが経験できました。

そこで、本当に純粋な、純粋透明なエネルギーが入ってきて、もう自分はただの通り道に過ぎないんだということがわかってくるんですね。つまり、すべては

尊師のエネルギーであって、わたしのものは何もないということです。」

・異次元をつなぐ神秘のパイプ

グルと弟子は、ヨーガでいうアストラルやコーザルという異次元によってつながっているといわれる。この神秘的なエネルギーの流れは、まさにそれが存在することを表わしている。

それを証明するものとして、当時の尊師インタビューの中に次のようなものがある。

「一番わかりやすい例を挙げるならば、ケイマ大師がシャクティーパットを始めたと。そうすると、最もわたしの強いエネルギーを受けているウマー・パールヴァティー・アーチャリー（尊師の四女）、あるいはマハー・マーヤ（現ヤソーダラー正大師）、彼女たちの肉体的、精神的状態に変化が出てくるんだね。特にアーチャ

リーは、よく泣くようになるとか、わがままになるとか、すごく変化が起きるんだよね。

もちろん、わたしもケイマ大師のシャクティーパットが始まると、体がだるくなるといった状態が起きるわけだよね。というのは、何を意味しているかというと、ケイマ大師がわたしのエネルギーを使ってシャクティーパットをやっているということを意味しているわけだよね。」

グルと弟子のつながりとは、まさに常識を超えた霊的関係なのである。そして、その最終地点に最高の世界、マハー・ニルヴァーナが存在しているのである。

よって、シャクティーパットを受けるということは、その聖なる流れに身を委ね、最高の至福の世界への道を歩み出すという、極めて貴重な意味合いがあるのである。

・二十日間の極厳修行――ヤソーダラー正大師のシャクティーパット

「とうとう、わたしのシャクティーパットが始まりました。シャクティーパットは、オウム真理教の誇る数々のイニシエーションの中でも最高の部類に属するものの一つです。その素晴らしさは、もはや伝説的ですらあり、多くの信徒の皆さんがこのシャクティーパットの再開を心から待ち望んでいらっしゃったものです。そして、わたしは、グルとシヴァ大神の祝福によって、そのイニシエーターとして登場することになりました。」

マハー・ケイマ正大師のシャクティーパットは、ヤソーダラー正大師に引き継がれた。九〇年十月一日のことである。この日を皮切りに、ヤソーダラー正大師は九一年七月まで、延べ千六百四十八回のシャクティーパットを行なわれた。

このシャクティーパット開始にあたっての準備をヤソーダラー正大師は、次のように書き記されている。

「眠ることの許されない一日二十四時間の激しい極厳修行――わたしは信徒の皆さんにできるだけ神聖なエネルギーを受けていただくために、二十日間にも及ぶこの極厳修行を終え、瞑想をわたしにとって可能な限り最高の状態に引き上げました。それは神通即我といってもいいような状態であり、その一部は先月号の『瞑想――神通力』でもお話したことと思います。」

このように、シャクティーパットは、もともと阿羅漢に相当する高いステージの解脱者が、極限の修行をこなし、全精力を傾けてエネルギーを注ぐイニシエーションなのである。それは、現実生活において煩悩を満足させながら片手間で他人にエネルギーを入れるといった類いのものとは本質的にレベルが違うのである。だからこそ、その効果と恩恵には絶大なものがあるのである。

ヤソーダラー正大師のシャクティーパットについては、インタビューなどの豊

麻原尊師の弟子であり、夫人でもあるヤソーダラー正大師が
3人目のシャクティーパット・イニシエーターとなった。

富な資料が残されている。そこには、シャクティーパットの際に生じる様々な内的変化が表わされていて興味深い。尊師、正大師、そしてシャクティーパットに同行した方々を含めた、九〇年十一月のインタビューを次章に掲載することにしよう。このとき、ヤソーダラー正大師は、約五百十九回のシャクティーパットを終了した段階であった（注：当時はまだ、マハー・マーヤ正悟師というホーリーネームであった）。

●変わる心、目覚める心

◎芽生えた四無量心

眉間に触れるヤソーダラー正悟師の指に集中し、「どうぞエネルギーを入れてください」と念じると、尊師のお姿が見えてきました。途中何度も尊師のお姿が消えそうになったり、他のことを考えそうになったりしましたが、後半には紫色の光がアージュニァーの辺りに見え出しました。高次元のエネルギーがどんどん入ってくるんだと感じると、正悟師の親指もより激しく動きました。

シャクティーパットが終わって正悟師に「順調です」と言われ、うれしく思いました。それはとても優しいお顔でした。

何日か経って感じたことは、わたしの中に四無量心が芽生えてきたのではないかということです。それは成就者に比べたら微々たるものでしょうが、他の人や生き物を見てとても哀れに感じるのです。なんとか救ってあげたいと思うのです。ヤソーダラー正悟師によって、確実にデータの入れ替えがなされたのでしょう。素晴らしいことだと思います。

（東京都調布市　S・T　三十歳）

◎子供のように素直な気持ちになれた

体のどこからかはわかりませんが、涙が込み上げてきました。こんなに優しい手があったのかと思うくらいに、ヤソーダラー正悟師のみ手がうれしくて、幼いころ何も考えずに母にすがって泣いたように、子供のように素

直にワーワー泣いていました。指先もしびれて、体も暖かくなってくるし、ほんとにどうなったかと思いました。

（和歌山県和歌山市　A・N　四十五歳）

◎一変してしまった心

まず初めに心の変化ですが、それは著しいものです。一変してしまいました。極度の緊張感から解放され、自己の発する嫌悪感に対して反省するようになり、冷えきっていた心に火がともり、明るさが増し、大変軽くなりました。…（略）…

これまでに得られなかった心の変化です。オウムのイニシエーションの尊さを、今かみしめています。

（東京都渋谷区　S・M　二十八歳）

◎明るく透明な意識状態に

尊師の手が額に触れると、今まで感じたこともないような安らぎを覚えました。そして、「わたしはけがれている、なんてけがれているんだろう、こんなわたしにまで大切なエネルギーを入れていただけるなんて、本当にありがとうございます」と、感謝の念がわいてきました。すると熱いものがこみ上げてきて、涙が出ました。

体はポーッとして、自分の意識自体が明るく透明な感覚に包まれました。そしてそんな感覚が終わった後も続いていました。

（愛知県一宮市　S・K　三十一歳）

◎あふれる涙

ヤソーダラー正悟師が額に手を置かれて間

もなく、足先が自然と動き出しました。わたしはエネルギーが本当に入っていくんだと実感しました。足が何回も動き、体があったかくなり、手の先の方がピクピク動き出しました。

正悟師がわたしの悪いカルマを採ってくださっているんだと思うと、自然と涙が出てきてしまい、嗚咽していました。そして、これからは悪業を積まないようにしなければ、という想いが強くわいてきました。

最後に、ヤソーダラー正悟師が優しく「すべての苦しみは幻影であることを理解しましょう」と言われたのですが、いつも自分ながら考えていたことなので、驚きました。そして、早く悟り、成就して尊師の救済のお手伝いをしたいと強く願うようになりました。

（大阪府大阪市　S・F　四十三歳）

◎心が軽やかに

（シャクティーパット後）フッと今まで憎くてたまらなかった職場の上司や同僚たちに対して許せる気持ちになり、そのうえ、真理のためとはいえ、自分の勝手で無理を言ったわたしが悪かったと、素直に謝りたくなり、瞑想中、思い浮かぶままに謝った。すると、今まで重かった心が嘘みたいに軽くなり、楽しくなった。…（略）…

普通なら、こんなに早く心が軽くなり安定しなかったと思うが、シャクティーパットのお蔭で一日そこそこでこんなに軽やかになり、明るくなったと思う。

思うにままならない自分の心をこうも簡単に変えていただいたのも、シャクティーパットのお蔭だとつくづく思い、早速三回目のシャ

クティーパットが受けられるよう、日々修行に励んでいる。

（大分県宇佐市　E・M　四十八歳）

◎不思議中の不思議

以前は「わたしは解脱しなくてもいい」と、〝解脱〟の意味さえよく知らずに思っていたわたしでしたが、気づいてみると、「解脱したい」と強く願うようになっているのです。これは不思議中の不思議でした。

（静岡県三島市　M・A　二十三歳）

◎大乗の道を歩みたい

最初の一、二分は、注がれるエネルギーによって体が少ししびれたり暖かくなったり、圧力が体中に加わり呼吸が乱れ声が出てしまいました。

その後、心の中で無意識に「尊師、大乗の道を歩ませてください。自己の苦しみを喜びとし、他の苦しみを自己の苦しみとして生きていきます。大乗の道を歩きたいのです。どうか、大乗の救済者としての善根をわたしに植えつけてください。わたしのすべてを引き換えに他の苦しみを自己の苦しみとする生き方をわたしにさせてください」という願いがわき上がってきました。

（徳島県美生郡　M・K　二十六歳）

第二章

対談「シャクティーパットの秘密を探る」

・カルマの認識

（編集部） シャクティーパット・ツアーを、十五日間連続で行なわれたわけですけれども、それを通じてお感じになったことをお聞きしたいのですが。

（マハー・マーヤ） カルマは存在しているんだなというのを、強く感じましたね。カルマというのは確実に存在していて、それが切れない限り三悪趣（さんあくしゅ）に落ちてしまうんだということが、多くのデータ交換をしながら体験的にわかってきました。

例えば、ああ、この人はこういうカルマがある。そういうカルマがある人には、わたしにはこういう反応として出ると。そして、自分で自分を思ってみると、そういう要素が自分の中に内在しているんですよね。結局、わたしもずいぶん気づかされたことが多かったです。マハー・ムドラーを成就しているのにそういうものが内在しているというのもおかしいかもしれませんけど。

（尊師） いや、それはそうだと思う。というのは、オウムのマハー・ムドラーの成就の場合は、グルが完全にその人の煩悩（ぼんのう）を止めてしまっているから、データが

完全にゼロ――ない状態になっているわけじゃないよね。ない状態というのは最終解脱の状態だから。だから、逆にその要素を認識するということは、修行にとってはプラスになるんだよ。つまり、その認識を超えればいいわけだから。

例えば、S師の性欲がすごく強いとしようじゃないか。それがマハー・ムドラーの成就で消えたとしよう。で、シャクティーパットをやると。ところが、だいたいそういう場合は、縁の深い人が集まるから、性欲の強い人が多くS師のシャクティーパットを受ける。そうすると、以前持っていた以上の性欲が出てくるということはあるよ、それは。それに対しては、瞑想することによって落としていけば、自分のもともと持っている煩悩には楽々打ち勝てるということだね。

それから、マハー・マーヤ正悟師のシャクティーパットの評価だけど、思念の力っていうのはやっぱり相当強いものがありますね。だから、信徒さんはそういう意味でいったら、マハー・ニルヴァーナのシヴァ大神を含めた多くの聖者と縁ができたんじゃないかと思います。それはなぜかというと、普段はこの人の思念

というのはほとんどわたしは感じないんだけど、シャクティーパットの最中は、ひたすらマハー・マーヤ正悟師のヴィジョンを見せられたからね。そして、マハー・マーヤ正悟師がシャクティーパットを始めると、わたしの体が動かなくなってダウンするという状態が続いた。これは、一番初めのシャクティーパットの瞑想では、グルを観想するわけだけど、それがうまくできていたということじゃないかね。

・素晴らしいイニシエーション

（編集部） お付きの師の方に伺いますが、このシャクティーパット・ツアーで、いろいろ感じられたことは――。

（アーナンダ） やはり、シャクティーパットを受ける前は非常に暗かった人でも、受けてすっきりなられて、しかも上昇のエネルギー状態になって、「よし、修行しよう」と頑張る方が多いということは、非常に素晴らしいことだと思います。

しかも、シャクティーパットによって自己のカルマを滅して、この輪廻（りんね）から脱

却する道が開かれるというのは、何ものにも代えられないことじゃないかと思います。そういう意味で、シャクティーパット、オウムのイニシエーションというのはすごいなと思いますね。中でもシャクティーパットというのは、正悟師を拝見していても、カルマを受けながらもどんどん高い世界のエネルギーを注がれて、それで多くの方を引き上げられるというわけですが、もう、これはほんとに素晴らしい——真理だなと思いますね。

（ナローパ） そうですね、改めてマハー・ムドラーの成就者のレベルの高さというのを実感しましたですね。クンダリニー・ヨーガのステージとは格段に違うなと感じました。

とにかく、カルマを受けて、即相手の状態がわかる。クンダリニー・ヨーガの場合、そういうものは漠然としかわかりませんよね。どこで受けたかもわからない。それが、正悟師レベルになると正確にわかってしまうんですね。そして、お与えになる指示の正確さには素晴らしいものがあると。つまり、マハー・マーヤ

正悟師がシャクティーパットをおやりになって、信徒の皆さんのカルマをご自分で吸収して、その人の状態というのを如実におわかりになるんですよね。そこで二言三言おっしゃると。その言葉があまりにも的確に信徒さんの心をとらえているから、急に笑い出す人とか、泣き出す人とか——まあ、泣く人というのは、かなり今回多かったんですけれども——ほんとに、その漏尽通のすごさを感じますね。それで一挙に信を得たり、それから、前回受けて、今回また受けて、えらく素直になってしまっている人もいました。もう、言われることがあまりにも当たっているんで、はいはいはいはいと聞く人とか。

（ウルヴェーラ・カッサパ）オウムが真理であるという確信を深めた方もかなり多いんじゃないかと思いますね。

（ナローパ）例えば和歌山のMさんの場合、わたしはちょうど、シャクティーパットをしている場所から相当離れた所でMさんの奥さんに行法指導をしていたんですが、だんなさんの声がね、「ウワー」とか聞こえてきて、バタバタバタバタ、

ダルドリー・シッディ（空中浮揚の前段階で起きる現象）が起こっている音がする。「すごい体験されてますね」って話をしていたんです。ご主人も、それだけにすごく感激されましてね、もう男泣きにオイオイ泣いて、足ももつれながら、倒れそうになって、良かった良かったって言って戻ってこられたんですよね。

いっぺんに信が強くなったと言っていましたね。早く出家しようと。行法指導のときには、もうそこで出家の話になってしまいましたよ。彼自身にとって、非常に強烈な素晴らしい体験をしたんじゃないですか。

・グルを意識せよ――続出する神秘体験

（編集部） 今回のツアーでシャクティーパットを受けられた信徒さんの反応はいかがでしたか。

（マハーカッサパ） 信徒さんの体験としましては、ダルドリー・シッディが起きるとか、それから、色を見る、光を見るとか。また、涙が出たり、至福感に包ま

れたりという方もいらっしゃいます。やはり、たくさんイニシエーションを受けている人、あとは、バクティー（奉仕修行）をしている人はエネルギーが入りやすく、進むのも速いようです。そういった意味で、その両方が大切だなというのは、今回のシャクティーパット・ツアーで信徒さんの反応を見て実感しましたね。

（ナローパ）今日、一番初めにお受けになったI・Gさんなどは、体験を聞いてもすごかったですね。息が止まるとか（呼吸が止まるのは、非常に高い瞑想状態である三昧（さんまい）の一つの証明である）、白銀光を見たとか。尊師からも、来世は大丈夫だろうと言われているんですよね。やっぱり、たくさんイニシエーションを受けていらっしゃいます。愛のイニシエーションだけでも、六回も受けているし。そして、その方の話を聞くと、日々修行していると。やはり、そうやって日々修行に励んで、イニシエーションを受けられている方は、シャクティーパットが無駄になっていないと感じましたね。日々の修行で、現世で受けたカルマを落としている。ですから、シャクティーパットを受ける度に段階的に上がっているんで

すね。

（編集部） マハー・マーヤ正悟師は、そういう方にシャクティーパットをされると、どう感じられますか。

（マハー・マーヤ） やはり、わかります。どうしてかというと、シャクティーパットをするときには、観想によって、マハー・ニルヴァーナのエネルギー、光をもらうわけなんですけれども、それを自分の中に入れるときに、サハスラーラに衝撃を感じる人がいるんですね。で、そういう人は、後でその信徒さんの参考資料のイニシエーションのところを見てみると、たいていたくさんイニシエーションを受けていらっしゃるとか、あと尊師に心が向いているとか、そういうことがありますね。

そして、信徒さんの中で、尊師とのエネルギー・ラインがはっきりと確立されているというのを感じる人もいるんですよね。信徒さんの立場からしたら、そういうエネルギー・ラインを確立するということは、すごいメリットになりますよね。

（尊師）それは完全に四預流支（しよるし）、四つの預流支を実践しているんだよ。四つの預流支を実践している人は、わたしとのラインが確立されている。そうじゃない人は、要するに確立していないということだね。

（マハー・マーヤ）古い信徒さんで、こういう人がいたんですよね。今まで体験がなかったと。で、実際にシャクティーパットをしている最中に、「ああ、この人は尊師に意識が向いていないんだ。だからエネルギーが入らないんだ」というのがわかったんですね。それで、そのことを言って、尊師に意識を集中するように言ったんですよ。そうしたら、パッとその人の意識が変わりまして、心が尊師に向いたんです。それで、シャクティーパットが終わって「どうでしたか」って聞いたら、「だいぶ明るくなりました」と言って喜んでいらっしゃいました。シャクティーパットは、ほんとに、イニシエーションですから、その人の心がどれだけ尊師に向いているかっていうことで、大きく違いますね。

・三悪趣への道を打ち破る

（マハーカッサパ）話は変わりますが、もう一つ印象的だったのは、以前に他の宗教をなさっていらっしゃった信徒の方には、エネルギーが入りにくいということですね。その例として、他の宗教を長いことやっていたあるご家族がいらっしゃったわけですけれども、そのお子さんがシャクティーパットを受けると、必ず泣くと。ものすごく泣くんですね。

（マハー・マーヤ）シャクティーパットのエネルギーを嫌がるみたいなんですよ。たいていそういうケースの場合は、その子がおなかにいるときから、母親の調子も悪いということで、「ああ、邪教のエネルギーが入るとこうなるんだな」ということがわかりました。他にも、エネルギーを入れていて、似たようなエネルギーの入り方をする子供がいる親御さんに、「以前、他に宗教やっていませんでしたか」と聞くと、必ずやっていたという答えが返ってきましたね。で、そういう方は、妊娠中毒症とか、切迫流産とか、そういうことで入院しているということが

多いですね。おなかにいる赤ちゃんというのは、母親のアストラルの影響をもろに受けるんです。だから、赤ちゃんに強く、その影響が出るんだと思います。東京で受けられた方は、幸いにも二回目のシャクティーパットで、もうガラッと子供さんが変化して……。

（アーナンダ） 変わりましたね。お子さんに聞いてみると、二回目のシャクティーパットは非常に気持ち良かったと言っていました。しかも、今度は色を見ているんですね。光の体験もし始めているんです。

（マハー・マーヤ） 浄化されるんですね。一回のシャクティーパットで変わる。

（編集部） 子供は純粋だから、良きにしろ悪しきにしろ、反応が早いということなんでしょうね。

（アーナンダ） あと、他の宗教をやっていたんですが、オウムに入ってからかなりステージを上げている人もいたんですけれど、そういう方はやはり熱心にコースに出て、イニシエーションを受けて、功徳を積んでということをされているみ

たいです。

（編集部） 元外道（げどう）の方も、それだけ熱心にやれば変わっていけるということですね。

（マハー・マーヤ） そうですね。

（アーナンダ） 必ず変わりますね。元外道で、三悪趣に落ちるカルマをつくってしまった者（真理ではない宗教に対して戒を守ったり、誓いを立てたりすることは低い世界へ結び付けるカルマをつくることになってしまう）が、シャクティーパットを受けて、修行をすることによってそれを変えられるんですから、すごいと思います。

（マハー・マーヤ） あと、実際にシャクティーパットをやっていて、相手によって地獄に引きずり込まれるような感覚を受けるときがあるんですよね。まあ、グルグルと回るように引きずり込まれることもあるし、重いものをぶら下げられるような感じで引きずり込まれるようなこともあるし、エレベーターに乗ったとき

みたいにスーッと落ちるような印象のときもあるんですけど、たいてい他の宗教が長かったとか、まだ他の宗教家に関心があるとか、殺生のカルマがあるとか、大きな戒を破っている人ですね。で、シャクティーパットの後に、この人のエネルギーはおかしいから、過去の宗教歴を調べてほしいと言って調べてもらうと、やっぱり十年間他の宗教をやっていたりとか、出てくるんですね。だから、シャクティーパットをやって、体験的にオウムのやっていることは真実だったんだなというのがわかりました。

（ナローパ）そうですね、後からそれが証明されるところがすごいですね。

（アーナンダ）確実にデータの入れ換えが起こるんですね。

・アストラルに映し出されるもの

（マハー・マーヤ）データの入れ換えといえば、こんなことがありました。ある支部でのシャクティーパットの後、ナローパ師の運転で帰ってきたんですけど、

その途中に、下位アストラルと通じてしまって。例えば、ヘッドライトに白い煙みたいなものが、ボーッと照らし出されているのが見えるんですよ。で、「あそこの煙、何？」って言うと、ナローパ師には見えてないんですよね。しかしわたしにはそういうものが見えていて、そのとき、すごい恐怖を感じるんです。

（アーナンダ）そういった下位の体験は名古屋でもありましたね。

（マハー・マーヤ）ありましたね。シャクティーパットをやった部屋で、そのままマントラを唱えながら横になっていたら、意識ははっきりしていたんですけれども、金縛りに遭ったんですね。そして、変化身（へんげしん）が、足からずーっと背中が半分離れるくらいまで持ち上げられて。もう周りが真っ暗で。

で、その後にヴィジョンが見えてきたんですけど、足から抜けるというのは地獄に通じていると尊師もおっしゃっているんで、これは地獄に通じている体験じゃないかと思うんですが、高野山の「奥ノ院」というのが出てきたんです。でも、わたしは奥ノ院っていう所には行ったことがないんですよ。

（編集部）そのとき、奥ノ院だってわかったんですか。

（マハー・マーヤ）そのヴィジョンの中では、それが奥ノ院で、空海が入定した所というのまではっきりとわかりました。

（編集部）データとしてわかるんですか。

（マハー・マーヤ）そう。それで、行き方まで自分で説明しているんですよ。この道をまっすぐ行って、右に曲がる道がある所に大きな駐車場があって、その右、奥の方に奥ノ院があると、わたしが説明しているんですね。「何で、外道の所に行こうとしているんだろうなあ」と思いながらも、そういうヴィジョンが出てくるんです。もう真っ暗なヴィジョンでした。それで、奥ノ院があると言っていた、その左側に、赤い柱が、こう、ボーッと暗い中で何本も浮き出て見えるんですよね。そのとき金縛りが解けて、起きて、「金縛りに遭ってばかりじゃ嫌だから、部屋の外に出よう」と、部屋から出ていったら、ちょうど、師方が食事をされていたんです。そして、アーナンダ師が仏教系の高校に行ってらしたため高

野山に詳しかったので、奥ノ院はそういう位置にあるんじゃないかって聞いたら、ほとんど一致していたんです。赤い柱にしても、少し離れているものの、方角としては、まさしく左側に珍しい赤い柱の建物があるということでした。

シャクティーパットでは、それだけはっきり、人のデータが入ってくるんですね。

（編集部） 真言宗を以前やった人が、信徒さんの中にいたということですか。

（ナローパ） 今の真言宗ではないんですが、いたんですよ、某密教系の人が。後で調べたらね。

・失われるサットヴァの光

（編集部） それから、東京でも下位アストラルと通じられたそうですね。

（マハー・マーヤ） そのときは、シャクティーパットの合間の結構長い休憩時間に、シャヴァアーサナをとって休んでいたんです。そうしたら、体が金縛りの状

態になって、そのときにわたしの頭の方に男の子が白い影となって現われたんです。これは、さっきシャクティーパットをしたあの人の子供だとわたしは直感的にわかったので、わたしの変化身が実際に部屋の外に出て、まだその女性が帰っていないかもしれない、帰っていなかったら、その人に確かめようと思って探すんですよね。結局、そのときには確かめられなかったんですけれども、後で、わたしが見た子供と同じ年ごろ、七歳のときに息子さんが亡くなったということがわかりました。

わたし、今まで一度も幽霊というか、下位アストラルの住人というものを見たことがなかったし、自分でも怖いから見るのも嫌だと思っていたんですけれども、今回は、何回か他の所でもあったし、金縛りに遭ってそういうものを見るようになってしまったんですね。

それはどうしてかというと、尊師は理由が二つあるとおっしゃっていました。一つは、シャクティーパットによって今までわたしが培ってきていた功徳が信徒

さんに移ってしまったために、下位アストラルに通じやすくなってしまっているということ。もう一つは、シャクティーパットを受けた人の亡くなった人に対する執着のデータがわたしに移って、それが再現されてしまったということが考えられるということでした。特に、亡くなった人に対する執着は悲しみを伴いますから、わたしも胸が痛くなります。

（尊師） つまり、功徳イコール、サットヴァの光であるという定義があるね。シャクティーパットでは、そのサットヴァの光を相手に注ぐ。サットヴァの光といっても一応物質だから、それを注いだら当然自分の光が弱るじゃないかということが、まず第一。

次は、その信徒さんのデータというのは何かというと、ナーディーのけがれ。例えば、スシュムナーというのを一つのフロッピーとして考えるならば、ムーラダーラにたくさんの例えば傷、データがあると。あるいはスヴァディスターナにたくさんの傷、データがあると。あるいはマニプーラにたくさんの傷、データが

あると。こういう形の低位のデータがたくさんある場合、シャクティーパットによってそれを消す代わりに、その傷はシャクティーパットをなす人に移行するということだね。

功徳の光がなくなって上の世界の経験ができなくなったという条件、これはどちらかというと、消極的条件と。それから、積極的条件としては、今言った、信徒さんの低位のデータが移行したということだと思います。

ところが、一応シャクティーパットをなしている人は、過去世の経験、あるいは今生の経験を含めて、そこらへんを通過しているから、それを速やかに消滅できる。これがシャクティーパットの妙技だと思うんだよ。

（編集部） 功徳の光がなくなるということですが、シャクティーパットというのは、相手の霊性を引き上げるし、非常な功徳になるのではないかと考えていたのですが。

（尊師） シャクティーパットをなす人は、相手の煩悩を自分がしょって消滅した

ということになるわけだから、それは当然功徳になるだろうね、そういう意味でいったら。しかし、それがそのときにすぐ現われるというわけじゃないよね。

例えば、お布施をしたと。即、良くなるわけじゃないでしょ。例えば、お布施をしたらまずお金がなくなるということで、いったん貧しくなるよね。ところが、そのお布施の功徳によって、現象が良くなって、お布施した以上の豊かさが出てくる。それと同じだよね、シャクティーパットも。サットヴァのプラーナを注いだということはいったん暗性になるけれども、今度はそれ以上の功徳が返ってくると。そのときは初め注いだサットヴァのエネルギー以上の大きなエネルギーが返ってくるということになるわけだね。

・イニシエーターの使命

（マハー・マーヤ）今言った下位の体験の後ですね、尊師がトゥモの修行をされていたら、尊師の心臓から邪気が出ていくのが見えたとおっしゃっていました。

そして、わたしの方は治ってしまったんです。

（編集部） 尊師の方にマハー・マーヤ正悟師が受けられた邪気が移行したということですね。

（マハー・マーヤ） 結局、わたしがカルマを受けても、すぐ尊師の心臓に入ってしまうそうなんです。心臓にコーザルがあるから。また、尊師は、わたしがどういう状態かというのを常にご存じなんですね。わたしが、ちょっとエネルギー状態の悪い人にシャクティーパットをして、かなり疲労してしまって「ああ、もうこれは限界だから、少し休みたい」と師に頼んだ直後に、尊師から電話があって、「様子がおかしいんじゃないか」と聞かれたとか。

（アーナンダ） そういうのは、何回もありましたね。今日もあったんですけど、尊師からお電話があって、すぐ正悟師に伝えてくれというときでも、ちょうどシャクティーパットの休憩時間だったとかね。だからほんとに、ぴったり合っているというか。正悟師がお疲れになったころに尊師から電話があって、「調子はどう

だ」って。

（マハー・マーヤ）それとは反対に、こういうこともありました。普通は、相手のカルマが自分の中に入ってきて相手の状態がリアルにわかるんですけど、あるとき、カルマがバーッと自分の中で広がったといいますか、どれがだれのカルマなのかわからなくなってしまった――自分で感じているのか、その人から来ているのか、また他の人からもらったカルマがまた出ているのか、わからないという状態になったことがあったんです。すごく混乱してしまって。で、これはもう限界だなと思って、そこでまた休憩を入れたんですけど、後で確認したら、そのときにちょうど尊師がトゥモを起こして、カルマの浄化をしていたとおっしゃるんですね。だから、一気にわたしの方も、浄化のプロセスとしてカルマが出てしまったみたいです。

（編集部）本当に、尊師と直結しているんですね。やはり、そういう現象が起きるのは、マハー・マーヤ正悟師が、グルと信徒さんを結ぶエネルギーのパイプ役

を担われているからでしょうか。

（マハー・マーヤ）ええ。自分のエネルギーではなくて、グルをはじめとするエネルギーをマハー・ニルヴァーナからいただいて、そのまま信徒さんに入れるというのが、わたしの使命ということですね。

（編集部）オウムではシャクティーパットができるのは正悟師以上ということになっていますけれども、やはりそれだけの集中力とか、心の浄化がなされていないとできないからと考えてよろしいんでしょうか。

（マハー・マーヤ）それはあると思いますね。例えば、一日に六十人以上シャクティーパットがあると、もう十二時間は集中し続けますよね。カルマを受けながら、集中し続けなければいけないから、やはり大変じゃないかなと思いますけどね。

（ウルヴェーラ・カッサパ）受ける側は十分しかないわけだし、その間に集中できる時間だってほんのわずかですよね。それを考えたら、施す方がその六十倍ずーっと集中したままやっているわけだから、これはすごい。

（マハー・マーヤ）受ける側が集中しているかどうかというのもわかるんですよね。集中していてくれないと、こちらの瞑想が途切れてしまうんですよ。

・すべてを映し出す透明な心

（編集部）体験談を読ませていただきましたが、信徒さんが集中できないと、よくマハー・マーヤ正悟師が注意なさったということですが。

（アーナンダ）ありましたね。

（ナローパ）マハー・マーヤ正悟師が信徒さんに与えられた行法指導書を見ますと、「余分なデータを入れないように」というコメントのある人がいるんですよ。で、そういう人に「あなたは、潜在意識が出てきませんでしたか。集中しなければいけないという表層意識じゃなくて、どうしようもない意識がポンポンポンポン出てきたんじゃないですか」って聞くと、もう百パーセント適中ですよ。信徒さんも「どうしてわかりますか」って不思議がられるんですけれども。

（マハーカッサパ）それから、行法指導で、自分であまり触れられたくなかった心の傷とか、全く今まで気づかなかった、自分の心の中の嫌な部分、けがれた部分、煩悩的な部分を指摘されてびっくりしたという方は多いですね。それによって、自分のけがれに気づいて、自己を見つめ直して、煩悩を落としていくプロセスに入れるわけですね。

（編集部）シャクティーパットというのはエネルギー交換ですから、正悟師は相手の状態をそのまま映し出されるんですね。

（マハー・マーヤ）ええ。わたしの場合は、カルマが自分に移ってきて、そのカルマで判断しているんですよ。例えば、体のどこが痛んだら、この人はどういうカルマだとか、どこがピクピクとしたらどうだとか、一貫性があるので、やっているうちにわかってきました。あるいは、チャクラに引っかかりを感じるとか、けがれているのを感じるとか、あるいは感情がそのまま入ってくるとか。

つまり、結局はその人のカルマが自分の中で再現されて、自分で感じて、相手

の状態がわかるという形です。そして、相手の状態がわかるだけではなくて、シャクティーパットの瞑想中に、相手に言わなければならないこと、相手に必要なこともわかるんですね。これこそ、直感智と言えるのではないかと思います。つまり、心を透明な状態に保つことができたなら、高い世界からの示唆を純粋に受け止めることができるんですね。

（アーナンダ）正悟師がシャクティーパットをなさっているとき、エネルギーが信徒さんに入っていく、プラーナが入っていくのが見えるんです。そして、たくさんの戒を破る、例えば、過食しているとか、精を漏らしている人というのは、シャクティーパットをしてエネルギーが入っても、そのチャクラから抜けてしまうんですね。そして、そのチャクラに対応するマントラをマハー・マーヤ正悟師も伝授なさっているんです。やはり、しっかりイニシエーションを受けている人、功徳を積んでいる人は、チャクラからの漏れが少ないですから、それだけ上までエネルギーが上がって、明るくなるというような体験をなさっていらっしゃいますね。

・シャクティーパットの負担

（編集部） 非常に過酷なスケジュールのシャクティーパット・ツアーでしたが、マハー・マーヤ正悟師のご様子を周りから見て、それだけの負担が正悟師にかかっていたというのはわかりましたか。

（ナローパ） そうですね、外観的にはあまりわかりませんでしたが、基本的に笑いがなくなります。もう、即、シャクティーパット後の修行に集中しなければいけないという体勢に入っていらっしゃいますので。ですから、終わった後は、こちらもいい環境を作って、何とかご修行をしていただけるように心がけていましたけれども。

（ウルヴェーラ・カッサパ） 肉体的には、やっぱり動きがつらそうで、ゆっくりになるというか。すごくお疲れだなというのは――普段は精神的にも安定していらっしゃるんですけれども――ちょっとした感情の揺れがチラッ、チラッと

出てきたりするところからわかりました。特に、シャクティーパットをやっていらっしゃる最中っていうのはすごく敏感になっていらっしゃって。

（アーナンダ）人が変わられますね、もう。

（マハー・マーヤ）やっている間は集中しなければいけないから、いろいろな音とか、人の出入りとかすごく気になるんですよね。

（ウルヴェーラ・カッサパ）ただね、それが、シャクティーパットが終わって手を信徒さんの額から離すでしょう。そうしたら、コロッと変わって、パッと笑顔が戻って、「頑張ってくださいね」という感じになる。シャクティーパットをなさるときはまた、「うーん」っていう感じで（笑）。それの繰り返し。

●それだけ激しい修行

（編集部）お体の不調とかは、今回のツアーではなかったわけですか。

（ウルヴェーラ・カッサパ）まあ、腰の痛みが取れないとか、そういうことはおっ

しゃってましたね。

（マハー・マーヤ） そうそう。最後の方では、次のシャクティーパットが始まるまでに、その前に受けたカルマ――いろいろ痛みとか出ますよね――それが落ち切らないまま、次に入らなければいけないときがありました。

（編集部） カルマを受けると肉体的にはどういう感じなんでしょうか。

（マハー・マーヤ） その人が痛みを感じている部分が、わたしにも出るということです。あるいは、その人の持っているカルマを象徴する部位の痛みが出てくるんですね。次の人に移ると、その人のカルマというのが入ってきますから、どの人のものが今入っているかははっきりわかるんだけれども、シャクティーパットが終わった後は、気が緩むせいか、それまでに受けたカルマの痛みを一気に感じて、それがなかなか抜けないということがありますね。

それから、肉体的なダメージとしては、今回、科学的な数値として、火元素の減少というのが現われたんです。シャクティーパット後に、トゥモの修行のため

に直腸温を計ったんですけど、普通、わたしは三七度台なんですけど、そのシャクティーパットが終わった直後は三五・七度にまで落ちていたんですね。そのときは、いくら温めようとしても、二時間かけて七度ちょっとまで温まったにすぎなかったんです。だから、確実にこちらはエネルギーを失っているんだなということが、ここからもわかりました。あと、あまりにもカルマを受けすぎて、トゥモが起こしづらくなるということがありました。

火元素が弱まっているために、食事も取れなくなりましたね。わたしが食事を取れる状態か心配して、尊師が電話をくださった日から実は食欲がなくなっていたんです。電話では、食事を取らなければいけないという意識があったので、食べているというふうに答えたんですけれども、結局食べられなくて、次の支部までタッパーに入れて持っていったりしましたね。食事は基本的に、丹とか、ソーマとか、イニシエーションでないとやっていけなかったんです。あとは、ミラクル・ポンドで作ったオウム食。果物はなし。火元素が弱っているときに果物を取

ると、体がいっそう冷えてしまうから、全く取っていません。

（尊師） 空元素、風元素、火元素と、どんどんどんどん落ちていくということだね、シャクティーパットをすると。風元素のエネルギーが落ち切らなければ、火元素には落ちないわけだから。それだけ、今まで修行で培ってきたエネルギーを落としていくということだ。そうすると、わたしがシャクティーパットで、なぜ体を痛めたか、あるいは次のマハー・ケイマがなぜ痛めたか、あるいはその次のマハー・マーヤがなぜ痛めつつあるかということが理解できるわけだよ。それだけシャクティーパットは激しい修行ということだね。

（編集部） 煩悩に翻弄されるというか、そういうことはなかったですか。

（マハー・マーヤ） 全然自分でも意味がわからないような、とりとめのないヴィジョンが出てきたりということはありましたね。

でも、結局は尊師が背負っていらっしゃるんですよね。尊師は、もう、悲惨な状態ですよ、おそらく。

（ウルヴェーラ・カッサパ）今日は正悟師は結構調子がいいとおっしゃっていたんですけど、尊師は、非常にお体の具合いが悪いそうです。

（マハー・マーヤ）結局は、わたしは尊師のエネルギーをいただいて、信徒さんに移しているにすぎないんですね。

・身も心も犠牲にして——それこそ本望

（編集部）精神的な影響はどうなんでしょうか。

（マハー・マーヤ）肉体的な痛みよりも、感情が入ってくる方がつらいなと思いましたけれども。結局その人の一番引っかかっている感情が入ってくるわけですね。嫌なことがあるとか、悲しいことがあるとか。で、その度にわたしがそれを味わうわけですよ。だから、「ああ、嫌なことがあったんでしょう」とか、「悲しみが出るでしょう」とか、そういうことがわかる。

（編集部）それらは、正悟師には今はない感情ですよね。

（マハー・マーヤ）というか、忘れていたことを思い出すような感じですね。

（編集部）まさにそれが、他の苦しみを味わうということですね。

（マハー・マーヤ）ほんとに、四無量心（しむりょうしん）の瞑想というのをしていなかったら、自分でこれだけ感じるのは嫌になってしまうかもしれないですね。でも、その分、信徒さんの方はカルマが軽減されているわけですから、それはそれで本望です。こちらとしては、また新しく受け取ったカルマを尊師に取っていただくとか、自分の修行によって消していくと。このとき、これらのカルマを自分のデータであると勘違いすると、とんでもないことになってしまいますね。わたしもよく失敗するんですけど。でも、これを繰り返していくことによって、結局は器も大きくなっていくだろうし、わたしが将来味わわなければならない苦までも滅することができるだろうし、それが大乗の修行じゃないかと思いましたけれども。

・信徒さんの変化が喜びとなって

（編集部）今回のシャクティーパット・ツアーを振り返っていかがですか。

（マハー・マーヤ）結果的なことなんですけど、わたしが一番うれしく思うのは、シャクティーパットをきっかけにしていっそう修行する人が出てきたことですね。例えば、シャクティーパット中に劇的な体験をして信を深め、それが修行に結びつくことが一つ。あとは、自分にないエネルギーが入ったことで、実際にクンバカが三十秒延びたとか、蓮華座（れんげざ）が長く組めるようになったとか、修行上の変化が起きて、よりいっそうやる気を出してくれる人がいるということが一つ。あと、シャクティーパット中に味わった心の状態――一種の高い世界の状態――を知ったことで、そこに向かって修行を始めてくれる人がいるということが一つ。

あとは、尊師のエネルギーですから、修行しようというエネルギーが入っているんだと思うんですけれども、やる気になったという人がいるということはうれしいですね。だから、その場で体験がなくても、後で体験する人も結構いるんで

すよ。

（アーナンダ）シャクティーパット後、自宅で修行なさって体験される方も多いですね。シャクティーパットを受けたときには体験していないけれども、帰って修行して、ダルドリーが起きたとかね。

（編集部）シャクティーパット後の修行も、非常に大切だということですね。

（マハーカッサパ）いろんな体験をしている人、あまりわからない人、両方とも結構いらっしゃる。いろんなレベルの方がいらっしゃるんだけれども、でも確実にエネルギーが入っているんだなと思いましたね。ヴァイブレーション的なものですが、確かに明るくなるのを感じますから。本人が気づく気づかないにかかわらず、シャクティーパットによって、修行のレベルは実際にアップするんだなと。そして、それを信じて修行をするならば、高い世界に導かれるというのを感じますね。

（マハー・マーヤ）タマスの人って、あまり感じないんですよね。それも、シャ

クティーパット中の瞑想でわかるんですよ。やっぱり、はっきりと瞑想ができなくなってしまうから。

以前は、そういう人に「あなた、今体験できないでしょうけど、ちゃんと修行していったら、体験できるようになりますからね」と、一言言っていたんですけれども、しかし、確実にエネルギーが入っているんだという確信が持ててから、もうそういうことも言わなくなりましたね。本人もそのうちわかるということがわかってきましたので。

・過去の自分への愛

（編集部） 信徒さんの体験談を聞いていますと、マハー・マーヤ正悟師から温かいヴァイブレーションを感じたという方が非常に多いですね。

（ウルヴェーラ・カッサパ） 非常にあったかいというか、優しいというか、包み込むようなというか、そういう雰囲気を受けられて、本当に感動なさって涙する

場面っていうのは、多かったですね。

（アーナンダ） 面談が終わってから、本当にうれしそうに、ニコッとしてね、帰る方が多かったですね。それから、シャクティーパットを重ねるにつれて、マハー・マーヤ正悟師が、日に日に変わっていかれるのがわかりました。正悟師のヴァイブレーションの幅が広く深くなっていくという感じですね。

（マハー・マーヤ） 結局、わたし自身、成就までにだいぶ苦しみましたので、その分、人の苦しみがわかるというか。

（ウルヴェーラ・カッサパ） 実際、こう言ったら何ですけれども、シャクティーパットの横についていても受けるくらいのすごくカルマの悪い人もいるわけですけれども、正悟師は、そういう人にも、すごくあったかいヴァイブレーションを送られてますからね。そういう人たちっていうのは、今はまだちょっと修行が進んでいないかもしれないけれども、本当に修行に頑張ろうという姿勢のある人たちでしょ。そういう人たちを、本当に引き上げてくださるんです。

（マハー・マーヤ）感じるんですよね。あのころの自分だったらこのマントラを授けられただろうし、このくらいのエネルギー状態だったんだろうなって。この人は過去の自分だっていう、それを感じましたね、ずいぶん。みんな、以前のわたしと同じように心に傷を持ちながら生きていますよね。だから、早く解放されてほしいなと思いますね。

●思いもよらぬ変化が！

◎修行が飛躍的に進歩した

（シャクティーパット後の変化）ヴァヤヴィヤ・クンバカ・プラーナーヤーマをしたときに、クンバカが三〇秒くらい延びた。ガージャ・カラニーが以前は八リットルから一四リットルだったのが、二〇リットルに増えた。蓮華座のときの足の痛みが普段より少なくなったような気がした。頭の回転、集中力が以前より増した。

（群馬県高崎市　T・Y　三十二歳）

◎いつでもエネルギーが入ってくる

シャクティーパットのお蔭で一気にステージが引き上げられたようで、いつでも意識すると、学校の中でも部活のときでもエネルギーが入ってくるのでした。

（新潟県長岡市　D・A　十五歳）

◎至福感に包まれた

集中している部分、考えていること、今のエネルギー状態になった原因などが見透かされていた。シャクティーパット後は、ヴァヤヴィヤ・クンバカ・プラーナーヤーマを一回やった後、ものすごい至福感に包まれた。

（東京都調布市　K・S　十九歳）

◎テストもジャンケンも思うがまま

（シャクティーパット後）数学の最初の授業でハイレベルテストがあり、わたしは前日勉強しなかったので焦っていました。そこへ

友達が四問だけ解けたといってわたしに見せてくれました。そして、テストが始まり、わたしは問題を見てビックリしました。そのテストは三問出題されるのですが、わたしの覚えていた四問中三問が、そっくりそのまま出題されたのです。

また、体育の授業でチームごとに班長を決めるのに、勝ち抜きジャンケンで決めることにしました。わたしはそういった役割はわりと好きなので、「班長になりたいな」と思念していました。すると、ジャンケンをする直前に相手が何を出すか頭に浮かぶのです。わたしはお蔭で、見事勝ち抜きましたが、百発百中で相手の出すものがわかったのには驚きました。

――シャクティーパットって本当にすごいですね。

（東京都中野区　I・W　十八歳）

◎心の状態がはっきりと違う

良いデータと悪いデータが交換されたということを二、三日してからはっきりわかるようになりました。受ける前と受けた後では心の状態がはっきり違います。受けた後、心が安定していることに気づきました。そして、煩悩的なデータが入ってくるテレビ・雑誌もあまり見ないようになりました。

（長野県長野市　H・M　二十六歳）

◎尊師の愛に応えたい

シャクティーパット中にヤソーダラー正悟師より「あなたは瞑想中に観想をきっちりし

ていませんね」と言われたときは大変驚きました。確かにわたしはパッパッと進めていたのです。自分の心の中の観想の仕方まですぐにわかってしまうのは、ただ驚くばかりです。

心の変化としては、修行が嫌いなこともあり、来世は天界、最低人間界に生まれたいと思っていたわたしでしたが、シャクティーパットから数日後、「愛欲界にいる限り輪廻し続けなければならないのだから、色界・無色界を目指してほしい」という尊師の説法がなぜか強く思い出され、「わたしたちが色界・無色界に転生することが尊師の願いであり、そのために大いなる愛を注いでくださるのだ。その愛に応えることがわたしの務めなのだ」と思えるようになりました。

また、苦しい修行は絶対嫌だと思っていたのですが、どんなことをしてでも修行しなければならないと思うようにもなりました。

（広島県佐伯郡　Y・H　二十七歳）

◎〝けだるさ〟とさようなら

朝目覚めたとき、会社での仕事が終わったとき、これまでは必ずといっていいほど〝けだるさ〟を感じていたのですが、今では全然それがなくなりました。

これもシャクティーパットのお蔭と感謝しています。

（岡山県総社市　I・H　二十五歳）

第四章

救済者の証——慈しみ、そして愛

一　隠された苦悩――カルマを背負う、過酷な修行

・ガンで逝った聖者

十九世紀のインドの聖者に、ラーマクリシュナ・パラマハンサという人物がいる。彼は、若くから修行者としての卓越した素質を有し、四十年以上も厳しい修行をしてサマディを得た聖者の秘儀をわずか一日で会得してしまうほどのステージであった。また、六カ月にも及ぶサマディを成功させるという偉業も成し遂げている。

その彼は、最期咽頭（いんとう）ガンで亡くなっている。

「わたしは弟子たちに触れ、カルマを受けて死んでいく。」

という言葉を残して。

実は、パラマハンサはシャクティーパットの実践者であった。そして、このガ

ンとは、シャクティーパットを行ない、弟子たちのカルマを受けたことが原因なのだった。

シャクティーパットが、施し手と受け手のエネルギー交換であり、カルマの交換であることは前に述べたが、受け手側がクンダリニーの覚醒、様々な神通力の獲得、あるいは心の浄化や安定という素晴らしい体験をする一方で、施し手がこうむるダメージは極めて大きい。パラマハンサの例はそれを如実に示しているといえよう。そして、それはオウム真理教におけるシャクティーパットも例外ではない。

この章では、シャクティーパットの過酷さと、それにも関わらずこのようなイニシエーションが行なわれる理由について、検証していくことにしよう。

・〝三度の死〟——さまよった生死の境

最終解脱をされた麻原尊師でも、シャクティーパットは過酷な修行であった。

尊師はそれを「魂の本質にかかわるような苦痛」とおっしゃっている。尊師がシャクティーパットによって何度も死線を越える体験をされてきたことはオウム真理教の信徒・出家修行者の間ではあまりにも有名である。

八六年から八七年の年末年始にかけて行なわれた「丹沢集中セミナー」では、急激なエネルギー・ロスと膨大なカルマを受けて、尊師は高熱に見舞われた。カルマの浄化は激烈を極め、小康を得たと思われたときでさえ、三十九度八分の高熱を発しておられた。

また、八八年八月に行なわれた「最後のシャクティーパット・ツアー」では、なんと三度も死の体験をされたという。当時のインタビューを引用しよう。

「――小宮さん（当時。現マハー・カッチャーヤナ師）は、ほとんど尊師についていらしたわけですが、そばでご覧になっていて、尊師のご様子はどうでしたか。

（小宮）そうですね。限界までやられるんです、とにかく。わたしたちは途中で

やめられた方がいいと思ってしまうんですね、尊師のお顔を拝見しているとすごく苦しそうですからね。人によっても違うんですけど、やっぱり、カルマの悪い方にシャクティーパットをなさると、かなりエネルギーをロスされるみたいですね。そういう方の場合は、ほんとにもう苦しそうなんですね。

——端で見てて、わかりますか。

（小宮） ええ、わかりますね。あと、尊師の声が段々小さくなります。どうして声が小さくなるかお聞きしたんですが、そしたら、『エネルギーをロスしているからだよ』っておっしゃったんですね。そして今回は、初めての方が多かったんですけど、初めての方というのは、尊師とのパイプ（注：修行上の霊的なつながりのこと）があまりできてませんよね。それで、特にエネルギーのロスが激しかったということですね。それが、やっぱり倒れられた第一の原因だと思いますね。

（ミラレパ大師） 尊師のお顔の表情を見ていると、まず、つらそうなときは顔をしかめられたり、目がちょっとうつろになったりしました。そして、だんだん前

かがみになってきて……。それから、お顔が土色になって、はれてくるんです。尊師は、どちらかといえば、彫りが深いと思うんですが、それがだんだんなくなってくる、つまり腫れてくるんですね。そして、血の気が引くような感じになって、それとともに唇が紫色というか、真っ青になるんですね。

（小宮） シャクティーパットも最後の方になると、尊師は立ち上がることが全然できなくなるんです。

（尊師） それは、腰に力が入らなくなるから。それから、普通のシャクティーパットというのは、きちんと座ってやるんだけど、もう後半耐えられなったから、小宮君が気を遣ってくれて、椅子を用意してくれたんだね、ひじ掛け椅子を。だから体を支えながら集中してたというかね。そういう状態だったね。…（略）…

まず、今回は三回くらい死んだよね。死んだというのは、仮死状態になったということ。で、それは証明ができるんだよ。なぜできるかというと、もう、どうしても耐えられなくて椅子に座ったわけだけど、そのとき肉体を抜け出したんだ

よね。そして、高い世界に上がったんだけど、しばらくして死んだんだとわかったんだよ。でも、わたしは帰らなければならないと思って帰ろうとしたんだが、帰り道がわからない、疲れきっているから。で、『あっ、そうだ。シヴァ大神を念じればいい』ということで、シヴァ大神を念じて帰ったわけだけど、肉体にたどり着いたときは、とにかくほとんど呼吸をしてない状態だったね。あさーく、ながーく、という感じで。成就者が涅槃するときの前段階まで来てたということだね。つまり普通の人は死ぬ前には、呼吸が浅く、速くなるよね。ところが成就者の場合は、浅く、ゆっくりになるんだよ。

（小宮）そうでしたね。

（尊師）だから、今回は三回死んだな。そういう状態が三回はあったから。それからもう一つ、すべては心なんだなというのを感じたよね。どういうことかというと、高熱が出ても、とにかく自分は大乗の修行者だし、すべてをシヴァ大神に捧げているんだという気持ちを持つとね、そうするとシャクティーパット前には

一応熱は下がるんだよ。そうしてからやると、その日は大丈夫と。もちろん今になっても何も食べられない状態で、下痢が続いているくらいだから、それは正常な肉体状態じゃないけども、でも、常人の限界点は相当越えているんじゃないかなという気がしたね。…（略）…

この苦痛というのは恐怖だからね。嫌悪というより恐怖なんだよ。触ることが恐怖なんだよ。

――それだけ、激しいということですか。

（尊師）そうだね、苦痛が激しいということだね。それからもう一つ、苦痛といっても、例えば、わたしは護摩法のときに火が飛んできてやけどしようと平気なわけだけども、そういう苦痛じゃないんだよ。魂の本質にかかわるような苦痛なんだよ。それは煩悩の苦痛なんだ。例えば清らかなものがあって、その清らかなものがけがれたもの、自分が絶対に入ってはいけない世界のものに触れたときの苦痛というか、そういう苦痛なんだよ。だから、自分以外の生き物と接する、振動

しているものと接する、つまり、生き物はいろんなヴァイブレーションを出しているわけだけど、それらと接することそのものが苦痛だったね、一言で言うなら。だから、それを越えるための修行なんだね。」

・さらに肝硬変、失明、そして肝臓ガン

麻原尊師は、この後も弟子たちのステージを引き上げ、解脱させるために、様々な形でイニシエーションを繰り返された。そのために、ついに八九年五月には現代の死病といわれる肝硬変（かんこうへん）に冒されていることが判明した。尊師は、ご自身の修行に入られたが、そのような状況でも布教活動を休まれることはなく、ついにもともとお悪かった視力までも完全に失われた。

その後若干休止していた支部活動も、九〇年十月から再開。新たに頭頂に手を置いた形でのイニシエーションが「永代帰依祈願（えいだいきえきがん）」という名で信徒の方々に始められ、それが翌年の三月まで続いた。しかし、三月、肝硬変が再発していること

が判明。それからまもなく、肝臓ガンが発見されたのであった。

普通ならば、もはや致命的である。しかし、尊師はこれらを「ガンで死ぬことを選んだ方が楽」といわれるほどの激しい修行によって、奇跡的に克服されたのであった。それは、病というものがカルマによって生じており、尊師の場合これらがすべて他から受けたカルマであり、自己のカルマではなかったことを意味していた。

九死に一生を得たとはいえ、シャクティーパット、イニシエーションの過酷さをまざまざと証明する話である。

・抜けられない痴呆状態——マハー・ケイマ正大師の苦悩

「何人かにシャクティーパットをされていくと、だんだん目はうつろになり、顔の表情がなくなっていくんですね。コマ送りのような感じで顔がどんどん老化していくのが感じられました。これは、プラーナがなくなっていくからだと思いま

すね。

そして、その日のスケジュールをすべて終えられたときには、半病人というような状態でしたね。疲れきって何もできないご様子で、修行もままならないという感じでした。」

これは、当時マハー・ケイマ正大師のシャクティーパットに同行したミラレパ正悟師の話である。麻原尊師の弟子としては初めて本格的なシャクティーパットを行なわれたマハー・ケイマ正大師の苦しみも並みたいていのものではなかった。当時の様子を伝える記事から抜粋しよう。

「十月中は、尊師の特別イニシエーションに同行し、土、日にシャクティーパットを行ない、平日に修行するという繰り返しであった。シャクティーパット後の修行は、尊師から指示されたものであり、受けたカルマをその日のうちに浄化し、煩悩的なデータを自己に根付かせないためには欠かすことのできないものである。

またここでは、次のシャクティーパットに備えてのエネルギーアップも必要とされるのだ。

本来の大師であれば、この程度の修行ができないなどということはあり得ない。しかし、受けたカルマがあまりにも重すぎると、これらの修行でさえできなくなってくるのである。ここに大乗の修行の過酷さがある。自分には全くなかった他人のカルマによって苦しむ、つまり『他の苦しみを自己の苦しみとする』修行が始まるのである。

『実際にシャクティーパットが始まってみると、カルマを受けることによって、修行もできなくなってしまったんです。平日にきちんと修行ができさえすれば浄化できるんですよ。ただ、例えば、無智のカルマをしょったとすると、自分の中の根本無智の部分と感応してしまって、修行ができなくなるんですね。本当はそれに打ち勝つために、意志の力によって修行ができれば——尊師のように強い意志で完璧にできれば——浄化できるんですけれども、私は意志が弱いので、その

無智に負けてしまって、しばらく修行ができなくなるんですね。だから、痴呆状態になると。

この、痴呆状態というのは、一日中ボーッとしていて、気がつくと眠り込んでしまっているとか、あと、よく尊師が、記憶が脱落するとおっしゃるんですけれども、物忘れが激しくなるんですよ。言われたことを、もう次の瞬間に忘れているというような状態でした。

ただ、マハー・ムドラーを成就していますから、放っておいても少しずつエネルギーが回復して、修行ができる状態になるんですね。ですから、シャクティーパットをやって痴呆状態になって、週末になってやっと修行ができるようになるということを繰り返していました。』」

・本当に悲惨な状態

前にも書いたように、マハー・ケイマ正大師はマハー・ムドラーの成就という、

自己が望めば涅槃できるまでのステージに到達されていたのである。それは、十二時間連続の呼吸停止という奇跡を成し遂げられたことに象徴されるとおりである。それほどのステージにあっても、シャクティーパットの与える影響は大きいのである。

「何もしないでいると絶対にはい上がれないほど落ちてしまいますから、修行しなければならないのですが、あまりにも極端に霊的ステージも心のステージも落ちてしまいますから、修行すらできないんです。

これは、後で尊師にお伺いしたんですけれども、わたしの場合、シャクティーパットで相手のデータが自分に入ってきたときに、そのデータを潜在的に喜んで取り入れてしまっているということです。マハー・ムドラーの成就というのは、すべての煩悩が停止している状態ですから、煩悩がなくなったわけではありませんよね。ですから、シャクティーパットで相手のカルマを受けて、その煩悩が動

き出したときに、わたしの場合、止める力よりも動かす力の方が強いと。で、動く方に心がとらわれてしまって、どんどん動いてしまうんだそうです。

マハー・ムドラーを成就した直後は、食欲も性欲も一切なかったんですが、救済のお手伝いをしているうちに徐々に出始めていたんでしょうね。でも、コーザルの段階だから、自分では気がつかなかったと。例えば『ボーディサットヴァの会』をやってカルマを受けたにしても、自分の意識上には、食欲が出たりとか性欲が出たりっていうのはなかったですね。

それが、シャクティーパットを始めたら、どんどん煩悩的になってくるんです。だいたい食欲が出て、次に性欲が出るんですけれども、夢で見るヴィジョンが変わるんですよ。そして、煩悩の表われ方ですが、それは、心、夢で見るヴィジョン、そして表層意識と移っていくのです。そこで、コーザルからアストラルへ、アストラルから現象界へと、煩悩は降りてくるんだなと思いましたね。

また、クンバカ（呼吸を止めること。修行の一側面を表わす）の時間も短くな

ります。つまり、煩悩が出てくるのと比例してクンバカが短くなり、呼吸が多くなってくるんですが、これは凡夫の状態に落ちていることをよく表わしています。で、ここで何とか歯止めをかけなければいけないというので、尊師が見兼ねて、いつもマハー・ムドラーをかけてくださっていたというわけです。本当に悲惨な状態でしたね。」

結局マハー・ケイマ正大師が、自己が背負った多くのカルマを落とすまでに約二年の歳月を要したのである。

●涅槃の体験——迎えにきた光

マハー・ケイマ正大師は、前生でマハー・ムドラーの成就の経験がないといわれる。しかし、シャクティーパットの過酷さは、前生でマハー・ムドラーを成就されていたヤソーダラー正大師の場合も例外ではなかった。なんと、ヤソーダラー

正大師は、涅槃のプロセスを実際に経験され、あと一歩でこの世を捨ててしまうところまでいってしまったのである。その涅槃直前の様子は、わたしたち一般人には伺い知ることのできない光景が展開されていて、非常に興味深い。

「瞑想に入っているわけでもないのに、非形状界（コーザル世界）の光が射してきてわたしを包み込み、そして広がり、窓一つない真っ暗な部屋を明るくした。（なんて明るいんだろう。）

眼を閉じて、軽く光に集中してみる。すると、何とも言えぬ至福感に満たされ、さらに、死というものが身近で、喜んで受け入れられるものとなるのだった。

その静止し、集中し、至福に満ちた意識の広がりは、かつて経験したことのある、空に没入した寂静（じゃくせい）の境地に非常に似ていた。が、違っている点もあった。寂静に至ったときのわたしは、サマディ（三昧）に入り、自ら非形状界の光の空間へと飛び込み、そこにとどまっていたというのに、今は、非形状界の光の方が、

わたしを迎えに来てくれているというような感じなのだ。」

人間が、一生を終え、死を迎えるときにはこの人体を構成している五つのエレメント（地水火風空）の崩壊が起きる。このとき、ヤソーダラー正大師は、地元素・水元素の崩壊が終わり、火元素の崩壊が始まっていたのだという。まさに、シャクティーパットで背負ったカルマのために、死の一歩手前まで来ていたのだ。

・ヤソーダラーの名に託された、グルの愛

さらに、このヤソーダラー正大師のシャクティーパットの苦しみを知る上で、当時のインタビューを見ることにしよう。これは、シヴァ大神や「あと一カ月の命」という天耳界の神々の示唆を受けて、尊師がヤソーダラー正大師を四十日間の独居修行に入れることを決定され、その修行が行なわれる直前になされたインタビューである（それに加えて、尊師はそれまでのホーリー・ネーム、マハー・マーヤ——サキャ神賢の母で、短命であった——の名前のカルマが生命に危険を

きたしている一因として、ヤソーダラーと変更された)。

・心の乱れ——五大エレメントの崩壊

(編集部) 『マハーヤーナ』のNO36号で、ヤソーダラー正悟師(当時。現在は正大師)のシャクティーパット・ツアーの記事が載りました。そこで、とにかく今はひどい状態で、まず肉体のエネルギーを回復させて風元素を正常にしてやろうと、人工的にトゥモの修行を行なって回復させているということが出ていました。この記事後、ヤソーダラー正悟師のお体であるとか心の状態、それから、いろんな回復を試みた結果というのは、今に至るまでどのように展開されてきたのでしょうか。

(ヤソーダラー正悟師) わたしの二回目のシャクティーパットというのは、非常に短期間で多人数を、全国ツアーということで行なったんですけれども、その直後というのは自分でも不調に気づかなかったんですね。しかも強制捜査(この捜

査が国家権力による不当な宗教弾圧であることを事件後多くの大学教授や有識者が指摘している）などもありまして、神経が張り詰めていたと。で、自分でもすごく一生懸命やったと思えるくらいワークしていたんです。富士・東京・熊本・阿蘇を行ったり来たりしながら、例えば、強制捜査の日から次に阿蘇に行くまで、五日くらい経っていたんですけれども、一回も食事をしていなかったくらいやっていたんですけれど、実際はそれは火元素が弱まっていたと、後で尊師に指摘されたんです。

そして、十一月下旬くらいから少しずつ瞑想ができるようになってきましたと、「瞑想――神通力」に書いたんですけれども、その直後に、尊師がマハー・ムドラーをかけてくださったんです。尊師のおかけになるマハー・ムドラーというものは――弟子の中にはマハー・ムドラーをかけられるのを喜ぶタイプの方もいらっしゃるということは、わたしもよく知っているんですけれども、わたしの場合は、ものすごいショックを受けるんです。その時点でのマハー・ムドラーでは、

あっという間に現実とアストラルの区別がつかなくなってしまいました。例えば、電話をかけると、「あ、それはさっき聞きましたよ」と、もう既に話したこと、人と会ったこと、それがアストラルで起こっていることなのか実際に起こっていることなのか、わからないようなショックを受けてしまったんですね。

十二月の中旬くらいから、そういう尊師のマハー・ムドラーが始まったんですけれど、それによってますます精神状態もおかしくなってしまいました。年始に行なわれた、小乗、大乗、あるいはバルドーのイニシエーションのころは、ほとんど座って眠ってしまっている状態で、さっと立ち上がったと思うと洗面所に行って吐いているんですよね。水分も受けつけなくなっていたんです。体が冷えてしょうがない。かといって食事ができない。じゃあミルクくらい飲もうかと。しかし、それでも吐いてしまうと。完全に風の流れがおかしくなってしまって、そういう状態が起こっていると。それから、五大エレメントの崩壊というのは、死ぬときに起こるもので、普通だったら起こるはずがないんですけれども、心の力によっ

てそれを起こし始めてしまったんです。

まず、地元素の崩壊が始まりました。こういうとき、もう肉体的にはめちゃめちゃです。わたしは気づいていなかったんですけれど、尊師はそのときに地元素の黄色い光が、ぱーっと広がっているのを見ていたそうです。そして、次に水元素の崩壊。そして、火元素の崩壊が始まったときに、医師のヴァジラティッサ師とマンジュシュリー正悟師が、尊師といらして、点滴を始めて救ってくださったと。あと、尊師が呼び戻す神通を使って呼び戻してくださりということで救われたんです。

（尊師） 十月のシャクティーパット後、十月二十二日の強制捜査があるよね。あの前までは、ある程度順調に回復していたけれど、あの後は、時間的な問題、いろんな問題で下降の一途。で、まあ今年の一月の十五日くらいからかな、少しずつ少しずつ一見回復基調と。でも本質は変わっていないと。

（編集部） それは肉体的なコンディションの方でしょうか。

（尊師）成就者というのは心がすごく絡んでいるから、純粋に肉体的、精神的と分けられない。だから、これは心の状態を言ってもいるんだよ。今言ったとおり、心臓に詰まった風の詰まりというか――ルン・トラブルだね、要するに――これがどんどんどんどんひどくなっていったと思いますね、わたしは。で、これはね、おそらく今の彼女のカルマだと思うんだけれど、次のシャクティーパットで目的どおり千五百名達成すると思うんだよ。そしたらまた七百、八百のカルマを一気にしょわなきゃならないわけだけど、今のままだと、それをやったら廃人になると思うね。廃人というか、大魔境に入って、もうどうしようもない状態になると。しかも、それはヤソーダラーにもオウムにも利益を与えないんだね。シャクティーパットを受けた相手は浄化されるかもしれないけども。

・大乗に向かって――四十日間の独房修行

（編集部）つまりヤソーダラー正悟師がシャクティーパットを終えられてから、

ずっと尊師は状態を見つつ、マハー・ムドラーをかけたりして、今回の極厳修行を決定されたわけですね。

（尊師） そうです。結局、ヤソーダラー一人を育てるのに、どれほどのわたしがエネルギーを注いでいるかとか、時間をかけているかというと、ま、本人はあまり気づいていないみたいだけど、一緒にいない時間でもヤソーダラーのことを考えていることって相当多いからね。つまりその間ずっと様子を見て、コーザル、アストラルと分析しているわけだよね。そういう時間を検討すると、言い方を換えれば、「わしがシャクティーパットをやった方がええわ」というレベルだよね。しかし、そうなるとヤソーダラーの大乗のヨーガの成就は当然ないわけだから、ここでやはり、しっかりと極厳修行させないといけないということだね。

（編集部） ヤソーダラー正悟師は、クンダリニー・ヨーガのときと今回と二度目の極厳修行ですね。

（尊師） 本音を言うと、彼女が修行に入ったら回復は早いと思うよ。もともと極

厳修行というか独居修行の得意な人だから。集中力のある人だからね。先程も言ったとおり、霊性の回復は早いと思うんだよ。ただわたしとしては、体までそれが影響を与えるためには、四十日くらいが必要だと思うけどね。というのは、普通は自分が元のところに戻ればいいじゃないかと考えるよね。ところが、大乗というのはそうじゃなくて、次に行なうエネルギーもその段階で蓄えなきゃならないわけでしょ。わかるよね。それを考えると、やっぱり四十日はかかると。四十日こもれば「大乗」じゃないかなと。ただ、大乗というのはシャクティーパットとイニシエーションが終わるまで持つという意味だよ。

（編集部） やり遂げるということですね。

（尊師） そうです。その後、もう一回こもらなきゃならないわけだね。

●恐ろしいカルマの交換

（編集部） ケイマ正大師は、シャクティーパットの後遺症に二年近く苦しまれた

わけですね。

（ヤソーダラー正悟師） シャクティーパットによってどんなにデータが移ってくるのかということは、シャクティーパットについて書かれた特集などがあるので、皆さん大体想像がつくと思いますけれども、本当に驚くようなデータまで移ってくるんですね。例えば、ある支部のシャクティーパットが終った後に、なんと牛乳搾りのやり方というのがヴィジョンに出てきたんですね。――牛乳というのは朝早く搾るのがいいんだと。そのときには朝焼けに牛乳が染まってエネルギーに満ちていると。しかし、今はそういうことはお構いなしに機械化されてしまって、何でもかんでも機械でやってしまっていると――。そういうふうにはっきり移ってくるんです。あるいは感情も移ってくると。それほどカルマ交換というのはしっかりと行なわれているわけです。

（編集部） その受けたカルマを落としていくのが、尊師のマハー・ムドラーなわけですね。

（ヤソーダラー正悟師） わたしが尊師に申し上げたのは、シャクティーパットの後しばらくは調子良かったから、マハー・ムドラーをかけてくださらなかったらそのままやっていけたんじゃないかと。まあ、泣き言を言ったんですけれども、そのときに尊師は、そういう入ってきたデータというものを自分のデータと勘違いして、そのデータが根づいてしまう、感情が根づいてしまうのを防ぐために、マハー・ムドラーが必要なんだとお答えになりました。マハー・ムドラーによって、心臓の、まあ、風にショックを与えるわけですね。で、コーザルのデータまで変わってきていますので、本人はなかなか気づかないわけです。自分のデータなのか、本質でないものなのかわからないと。そこで尊師がマハー・ムドラーをかけてくださると。たとえるならばこれは、解脱をした、すべてが終わった、研究が終わった人が、ここをやりなさいと指摘してくれるようなものです。千五百人にシャクティーパットをやったなら千五百生かかって落とすのかと、それよりはマハー・ムドラーをかけてもらって、要領よく落としていく方がいいん

だと、そういうことからマハー・ムドラーというものが必要となってくるわけですね。

（編集部） それで、極厳修行は風のエネルギーの回復ということがポイントなんでしょうけども、その他に特にポイントとなることはあるんでしょうか。

（尊師） 彼女は、アパーヤージャハと同じように、早く駆け昇った人だよね。だから、ある一面五蘊形成において無理があるんだよ。心の内側までズバッと入ったんだけど、修行に入って短いから、例えば教学とか、あるいはマントラ瞑想とか、基本的な部分がかなり欠けているところがあるから、そこを今回四十日間で補えばいいんだと。だからヤソーダラー正悟師にやらせようと思ってるのは、基本的な礼拝と小乗のツァンダリーと大乗のツァンダリーと、それからあと若干の教学ね、この四つの柱でいこうかなと思ってるんだね。この四つの柱を実践させたら、エネルギーの回復そのものは二十日ぐらいでいけるんじゃないかと思ってるね。

ただ先程言ったとおり、肉体の回復とそれから次のシャクティーパットをやるまでには至らないと。しかも、シヴァ大神とわたしは何回も会話するんだけど、最低四十日と言ってらっしゃるからね。彼女のことだから、たぶん四十日で出てくるだろうけど、その最低線だけはやっぱりキープしたいなと。

・悪魔の影響

（編集部） 今回の四十日の極厳修行ですが、様々な仕事が山積みしているという状況と、もう一つ、ヤソーダラー正悟師の中に何か修行に入るためらいのようなものがあるように、今、お話の中でお見受けしますが。

（ヤソーダラー正悟師） 何かそこにもワンステップあるんですよね。今の状態は。

（尊師） そうなんだよ。

（ヤソーダラー正悟師） 何なんでしょうね。かと思うと、調子がおかしくなったときには、食べないで閉じこもっていて平気なのにね。

（尊師）一つ言えることは、このヤソーダラーが「あと一年」というのは、視覚的なものも入っているんですよ、死魔に襲われているというか。ヤソーダラーは気づいていないけれども、死魔に襲われているんだよ。

（ヤソーダラー正悟師）死魔……。

（尊師）人が死ぬときというのは、コーザルとアストラルの遮断が起きたり、アストラルと現象界の間に遮断が起きたりするんです。ということは、その空間が闇になるわけだ。そういう光がヤソーダラーの中にあるわけ。だから天耳通で一年と聞くだけではなくて、視覚的にものを見ているわけだね。

（ヤソーダラー正悟師）ああ、死ぬ前兆が視覚的にも見えるように出ていると。で、この状態になってしまうと、本人は死んでもいいじゃないかと思ってしまうんですね。

（尊師）そうそう、そうそう。

（ヤソーダラー正悟師）『南伝大蔵経』の『パーヤーシ経』にあったように、長

く生きて修行して、救済しなきゃいけないというのと正反対に……。

（尊師） それはカーテンが降りた状態だから、修行にも入りづらいわけだね。それを取り除かなきゃなんないわけだね。しかし修行に入ったこと自体が、それを取り除くことになるわけだね。言い方を換えれば、悪魔というのはそれだけ許してくれないわけ。

・大乗までの激しいワンステップ

（ヤソーダラー正悟師） 尊師の何かの記事で、マハー・ムドラーの成就から大乗までは、実はもうワンステップあるんだ、と言われているのがありましたけど、そのワンステップというのが、ものすごいワンステップだなと。

（尊師） マハー・ムドラーの成就よりも激しいんですよ。

（ヤソーダラー正悟師） それは感じますね。だって自分の得た素晴らしい状態というものをなくしてしまうわけですよね。自分のそういう状態をなくすのを受け

入れられないという気持ちというのは、打ち消そうとしても内からわき起こってきてしまう。今は、そういう状態ですね。

で、シャクティーパットで一度に多くの煩悩を受けてしまって、ナーディー――特にアナハタが詰まってしまうと。これは尊師に教えてもらったことなんですけれども、下のチャクラしか働いていないように自分では感じてしまうと。つまり低い煩悩にまみれた状態ですよね。すると、その中でまた正常な思考ができなくなってしまうんですよね。修行に対するもの、帰依に対すること、救済に対すること、すべて正常な思考ができなくなってしまうんですよ。

だから、その自分で得たものを失うことの大変さということと、その自分の状態が悪化していてそこでもう正常な判断ができなくなっていること、その二重の大変さというのがワンステップに含まれていると思いますね。

二　大いなる〝あがない〟——人々を利するために

・大乗の修行——オウム真理教の真髄

なぜ、オウム真理教ではこのような過酷な修行を行なうのであろうか。読者の皆さんは疑問に思われるに違いない。それは、オウム真理教が、すべての魂の救済を目的とした「大乗の修行」をその宗教理念の根本としているからである。

大乗の修行とは、救済者へ至る修行である。尊師はそれをよく、「ドブ川の中に咲く蓮華の花」にたとえられる。つまりそれは、苦悩の中に自己を置き、そして光り輝く到達真智運命魂（菩薩）・覚者（仏陀）・真理勝者（如来）としての役割を果たすということなのである。

そして、ここでいう救済とは何か。よくいろいろな宗教が、救済という言葉を使っているが、真の救済とはすべての魂に絶対の自由・幸福・歓喜を与えること

に他ならない。それは、この人間界を含む欲望を土台とする六つの世界を超え、苦しみの輪廻（りんね）の輪を脱却し、至福の世界マハー・ニルヴァーナへとすべての魂をいざなうことなのである。

つまり、この世の無常の上に成り立つ束の間の幸福を与えるだけでは、真の救済とはいえない。少しでも、その人の転生を引き上げ、より高い世界へ導いてこそ、初めて本当の救済といえるのである。よって、それは本物の解脱者以外になし得るものではないのだ。麻原尊師のお言葉を次に引用しよう。

・真の仏陀への道

「真の王の道とは何か、真の仏陀の道とは何か、それを考えた場合、上の者は下の者を慈しみ、本当にすべての者が幸福になることを考える。そして、下の者はその道を歩いている者を尊敬し、これぞ真の道であると理解する。そして、わたしも苦しいけれどもこの道を歩こうと考える。これこそが真の大乗の仏陀に至る

道である。…（略）…

すべての魂がマハー・ニルヴァーナに入るまで、エネルギー、心、そして身体、これを供養し続ける、これが大乗の仏陀の修行である。つまり、このカルパが終わり、次のカルパが終わり、何カルパ、何十カルパ、何千カルパ、何億カルパ、今イモムシの生命が、今地獄の生命が、今餓鬼の生命が、すべての生命が自己が生きていること、自己の苦しみ、それは幻影であるということに本当に気づき、そして真理を実践し、最終の世界、マハー・ニルヴァーナに入ったときこそ、『大乗のヨーガ』は完成する。なぜならば、大乗の発願そのものが、すべての魂がマハー・ニルヴァーナに入るまで、わたしは身・口・意の三つの功徳を添えて修行に励みましょうというものだからである。

そして、大乗の発願が真実であるならば、当然すべての魂がマハー・ニルヴァーナに入るまで、『大乗のヨーガ』の完成はあり得ない。その修行を続けるためには、日々謙虚な心、そして日々他を利する心、日々すべての魂の苦悩に対して思

いやる心、そしてその苦悩の原因と結果とは何かを絶えず見つめる心をもって生きなければならない。これが大乗だ。

よって、大乗の修行者とは真の勇者を指す。なぜ、真の勇者か。それは勇気というものを考えてごらん。自己を犠牲にし、果敢に他を済度する。そのためには自己の中に不動の心が必要である。…（略）…

大乗、これは大変険しい道である。オウムで言われている大乗とチベット仏教で言ってる大乗とでは意味が違う。例えば、もしわたしが今生でマハー・ニルヴァーナに入ったとするならば、それはわたしが大乗ではなかったということだ。つまり修行の流れそのものが、一年、二年、三年、五年、二十年、五十年という、そういう短いカテゴリーで考えられているのではなくて、一生、十生、千生、一カルパ、十カルパ、五百カルパ、千カルパ、そして、すべての魂がマハー・ニルヴァーナに入るまでの修行の道、これをオウムでは大乗といってるんだということを改めて認識してほしい。」

いくら今幸福だという人であっても、老い、病、そして死という苦しみは避けることができない。普段わたしたちは、それらから目を背けているが、この世の本質は、無常を根本とした苦しみなのである。

小乗（しょうじょう）の修行が、解脱・悟りによる自己の苦しみからの解放を目的とするのに対して、大乗の修行のポイントは、「自己の苦しみを喜びとし、他の苦しみを自己の苦しみとする」ということなのである。

そこで、いったん自己の苦しみから解放されたマハー・ムドラーの成就というステージから大乗の道へと移行するということは大変なことなのである

・シャクティーパットは大乗の入り口

この大乗の修行の第一歩が、シャクティーパットなのである。オウム真理教では、マハー・ムドラーの上位のステージを「大乗のヨーガ」と呼ぶが、これはシャクティーパット一千回、特別イニシエーション百人をなすことが要求される。

「オウム真理教においては、加行としてシャクティーパット、そして特別イニシエーションを行なわせることになっている。

この特別イニシエーション、シャクティーパットは、端から見たら、大した加行に見えないわけだが、実際はエネルギーの交換、あるいはデータの交換等で、自己の培ってきた崇高な、そして透明な意識状態やエネルギーを放出し、混沌とした意識状態や濁り、そして管（エネルギーの通り道）を詰まらせ、苦しみを与えるエネルギーとの交換となるわけだから、その苦しみはその加行を実践している者だけしか知るよしもないであろう。」（麻原尊師）

シャクティーパットが大乗の修行とされる意味合いはここにある。つまり、マハー・ムドラーを成就することによって得た個の完成という最高の境地を捨て、自己の安楽と引き換えにして他の苦しみを背負う。これこそまさに、真の大乗であり、救済者の証なのである。

・大乗の背景にある心

ここで必要とされるのが、大乗の愛の心、そしてそれをも含む「四無量心（しむりょうしん）」である。

「本当の大乗というのは、自己の苦を滅して、本当は安穏な生活に入れるんだけれど、それを振り捨てて、苦悩の世界に、他のためにどっぷりつかると。そこで生じた苦に対して、その苦の総量に対して抵抗力を強めていくと。で、その抵抗力を強めていくただ一つの方法は愛だから、その愛を育んでいく。」

ここでいう大乗の愛とは、世間一般に見られる「優しさ」あるいは「思いやり」といったレベルのものではない。それは、人智を超えた激しい修行によって、自己の煩悩、自己の苦悩を克服し、他の苦悩の中に没入して平然としていられる状態、その状態における利他の心をいうのである。そして、すべての魂が高い世界

へ生まれ変わることを思索する、その心をいうのである。しかもその行為の背景には、プライドや名誉欲といった心が一切あってはならないのである。

「例えば、わたしはパスポートを持っているわけだよ。絶対的な、自由で幸福なマハー・ニルヴァーナ、大涅槃といわれている状態に入れるわけだけど、しかし、それを否定しているわけだよね。それを止めているわけだよ。では、なんで止めてるかというと、要するにそれは大乗の愛によって止めてるわけだよね。ここに苦痛がある、しかし、その苦痛よりもね、愛が勝つと。その修行をしていたわけだよね、ずっと。」

過酷なシャクティーパットの修行をされていたご自身の心の背景を麻原尊師はこのように話されている。

・四無量心と大乗の発願

「ホー　湖面に映る虚像のような
様々な幻影に引きずられ
輪廻の大海を浮沈する生き物たち
彼らすべてが絶対自由・絶対幸福なる
マハーヤーナにて安住することができるよう
四無量心込めて　大乗の発願をいたします。」

これは、オウム真理教で唱えられている「大乗の発願」という詞章である。シャクティーパットの土台ともいえる、この意味合いを麻原尊師は次のように説明されている。

「この生きているということ、あるいはわたしたちが、喜びだと考えてること、

すべてがマーヤ、幻影であると。幻影というのは何かというと、実体がないと。この実体のないものに、わたしたちを含めた、周りの人たちすべてが翻弄され、そして苦しみの生を受け続けていると。この苦しみの生を受け続けている人たちに、本当の自由、本当の幸福を与えるために、ね、仏教でいうところの最高の心、つまり四つの無量心――すべてのものを平等に、ありのままに見つめる心、そして、すべてを、ね、育む心、育み育てる心、そしてすべての苦しみに感応し、その苦しみや悲しみを半分でもいいからしょってあげる、取り除いてあげる心、そしてすべての善行に対して、心から誉め称える心ね――この四つの心というものを込めてね、念じてね、すべての魂の苦悩を取り除きますよというのが、この大乗の発願の意味なんだね。」

・真理の系統――救済者の使命

ところで、なぜこのような大乗の心が生じるのか。なぜ、いち早く涅槃してし

まわないのか。大乗の修行の実践によって、いったい何を得るのであろうか——読者の皆さんには、このような疑問が依然残されるであろう。

麻原尊師は言われる。

「例えば、百名を越えたくらいからだったと思うけど、シャクティーパットをした人数が増えるよね、そうすると、そのけがれた振動をマニプーラとかスヴァディスターナとかに感じるんだよ。それは苦しいわけだね、一言でいうならば。そして、本当だったら、そこでできなくなるわけだよ。ところが、その大乗の修行をしていると、『わたしもそういうけがれた状態だったわけだけれども、それを偉大なる主宰神、シヴァ大神によって救済していただいた。だから、わたしがここで苦痛を感じること、それは、わたしが導いていただいた道なんだから、当然である』と考えるわけだね。」

麻原尊師は、これを「真理の系統」、「シャンバラの系統」と言われる。

それは、麻原尊師のシャクティーパットを引き継がれたマハー・ケイマ正大師にもそっくりそのまま当てはまる。

「また、心の問題としては、やはり愛の心を持つことが課題だと尊師から言われていました。まず、マハー・ムドラーの成就で平等心のベースが作られましたよね。そして、その次に来るのが愛であるということでした。とにかく、すべての魂が益するように、すべての魂のために自分の修行があるんだという心を持ち続けることが課題でした。

シャクティーパットをすると、確かにすごく疲れて、例えば後半の方になると観想もしづらくなりますし、肉体も疲労するし、右手が冷たくなるのがわかるし、とにかく同じことを十時間ぐらいずっと続けているわけですから、手がだるくなって動かせないぐらいの感じになるんです。

けれども、そのときに、自分も尊師の愛によって成就させていただいたのであ

る。尊師の愛がなかったら、自分は間違いなく来世は三悪趣に落ちていたんだ。そして、今このシャクティーパットを受けている人も、ここでわたしがシャクティーパットを行なうことによって、修行者としての因が植え付けられて、いずれは成就して救済者になっていくだろう。だから、自分の肉体がたとえボロボロになったとしても、エネルギーを入れ続けなければならないというような気持ちを持って、シャクティーパットを行なっていました。」

「すべての背景となっているのは、麻原尊師の偉大なる愛」とマハー・ケイマ正大師は言われる。その愛がなければ、わたしは修行をすることもできなかった。そして、成就まで導いていただいた。今度は、わたしが尊師によって成就させていただいたように、一人でも多くの方に、少しでも幸せになるパスポート、きっかけを持ってもらいたい。真理の道を指し示したい——この心があってはじめて、マハー・ケイマ正大師は過酷なシャクティーパットの修行を完遂することができ

たのである。

ヤソーダラー正大師も言われる。

「しかし、この苦しみもシャクティーパットやグルヨーガ・マイトレーヤ・イニシエーションを受けた信徒さんの霊性が進化したとか、心が変わって明るい人生を送っているなどという話を聞くと、

（本当に良かった。わたしは確かに今、イニシエーションを受けた人たちのカルマを背負って苦しんでいるけれども、それによって、わたしと縁のできた人たちが幸せになっているんだな。）

と感じ、心の底から喜びがわき上がるのである。」

●真理の実践者のみが知る最高の叡智

シャクティーパットをなす修行者は、真の意味で広大な愛の心を育んでいく。

しかし、得られるものはそれだけではない。実は、現世的な観念にとりつかれた者にはとうてい理解できない、素晴らしい果報がもたらされるのである。それは真理の実践者のみが知る、最高の叡智といえよう。

シャクティーパットの土台となるもの、それは四無量心である。見ようによっては、全く自己の利益とならないような四無量心の実践。しかし、真理を背景に、人間の苦と楽の因がどこにあるかを智慧をもって解析する者には、それは深い意味をもって理解できるのである。

「では、この四つの無量心の実践が、何ゆえにカルマを超越する——仏典では出離(しゅつり)といっていると。出離というのは、出て離れると、ね。何から出て離れるかといったら、それは業、カルマから出て離れるわけだけども——何ゆえにそのカルマから出て離れるといえるんだろうかと。それは、人間のカルマそのものすべてが、自己の利益、自己保全という心の働きがあり、その心の働きによってカルマ

を形成しているわけだから、そのカルマを超越するためには、自己の保全をするという気持ちを超越することによって、そのカルマから出離できるんだと。これが、大乗仏教のものの考え方の根本にあるものであると。

よって、わたしがよく言っているとおり、例えば一パーセントでも、あるいは〇・一パーセントでも、その心の働きの中に自己の利益というものを考え行動するならば、それは真の意味の菩薩道ではないんだということに気づかなければならない。ということは、言い方を換えれば、苦しければ苦しいほど、それは、その人の出離という点から考えると、効果的な修行だということがいえる。」

わたしたちを縛りつけているカルマ、その背景にある自己を利する心がわたしたちに不幸をもたらしている。よって、その対極にある四無量心の実践が、わたしたちの心を本当の意味で解放してくれるのである。

・他の苦しみを自己の苦しみに――「苦の詞章」に隠されたもの

「自己の苦しみを喜びとし、他の苦しみを自己の苦しみとする」――これは、「苦の詞章」といわれるオウム真理教の一つの詞章だが、ここには深遠な意味が含まれており、そしてこれこそが大乗の叡智を解く鍵なのである。

なぜ、自己の苦しみが喜びなのか。これはカルマの理法を知ったとき、おのずと解明することができる。まず、自己が苦しみに浸っているときというのは、自己のなした悪業が落ちていることを表わすのだ。それは、来世自己が高い世界へ転生できるということを意味している。逆に、自己の喜びを喜んでしまえば、功徳を消耗し、来世低い世界へ転生することになる。

そして、他の苦しみを自己の苦しみとして理解し、さらに理解するだけでなく体得することができると、その者は本当の意味で苦悩から解放されるのである。なぜならば、そのとき他の苦しみが幻影であることに気づき、それによって自己の苦しみも幻影であることに気づくからである。これによって、その修行者の苦

に対する許容量はどんどん大きくなっていくのである。

「……その過程で、苦しみは幻影であるということを理解しなさいということでした。そのためにはどうすればいいかというと、自分が苦しいときに他の苦しみを本当に考えることができれば、自己の苦しみも幻影であるということに気づくということなんです。つまり、自分のことは見えないけれど、他は見えますよね。そして、他の苦しみだったら、どこに因があって果があるかというのがわかりますね。そこで、他の苦しみがよく理解できたならば、今度は自分にも当てはめることができるから、どこに原因があるかというのを自分自身で見つめ直して、それを分析すると。そうすると、苦が幻影であることに気づくということを教えていただきました。」

マハー・ケイマ正大師もインタビューでこのように語られている。

・大乗の修行こそ自己のための修行

さらに、シャクティーパットによって他の多くのカルマを背負うことには深い意味がある。尊師のインタビューから引用しよう。

「**（尊師）**じゃあね、ここは一つの秘儀に属するんだけど、小乗と大乗の違いは何かというと、小乗というのは自分の今生のカルマ（前生が規定した今生のカルマ）を中心として解放されるわけだよね。大乗というのはもっとステージの低い人たちのカルマをしょうわけだよね。しょうというのはどういうことかというと、自分の過去世なんです、これは。そしてその過去世のカルマを一気に解放するわけだよ。それは楽になるでしょ。結局、「自己の苦しみを喜びとし、他の苦しみを自己の苦しみとする」ということは、そういうことなんだよ。

（ヤソーダラー正悟師）過去世の……。

（尊師）過去世の苦をね、一気に経験し解放するんだね。

（ヤソーダラー正悟師）で、その過去世というのは。

（尊師）自分の過去世だよ。何十カルパにしろ、何千カルパにしろ、何億カルパにしろ関係ない。必ず自分の過去世のどこかに当たるんです。

（ヤソーダラー正悟師）ああ、そんなにもカルマというものは引続き引続き……。

（尊師）いや、違うんです。そのときの経験は次の生に依存されると。その終わった経験はまた次の生に依存される。これはOKだね。でもその依存されたカルマを別に超えたわけじゃないんだよ。つまり、それは勝手に生じては滅される、生じては滅されるだけだから。経験ということはそうでしょ。

ところがマハー・ムドラーを成就したということは、今生のカルマをまず脱却したわけだよね。まず、これはOKだね。そうすると、多くの人たちと接する大乗というのは、まず縁のある人たちにシャクティーパットを行なうと、第一にこれは間違いないわけです。第二段階として、そのカルマを解放するということは、その生じては滅しのプロセスを無意識のうちに経験するんではなくて、意識的に

経験してそれを超えることができるわけだから、過去世を超えたということになるんだよ。結局はだれのための修行でもない、大乗の修行こそ、本当は自己のための修行であるとわたしは思うね。」

マハー・ムドラーの成就によって、過去世のカルマとしては修行したカルマしか残っていない。だが、今生つくったカルマは、マハー・ムドラーの成就後に落としていかなければならない。しかも、それにはシャクティーパットで受けた何百人分ものカルマが加わっている。しかし、これらのカルマを落とし切ったら、多くの人にシャクティーパットを行ない上向させたという功徳だけが残るのである。しかも、そのときに得られる解放感は、マハー・ムドラーの成就の解放感とは全然違うものなのである。

一見自己を傷つけるだけに見える過酷な修行も、実は他を利すると同時に自己を利することにもなる——まさに、真理を実践する者のみが知る偉大なる智慧(ちえ)といえよう。

・愛に支えられた奇跡——広がりゆく心

「牛乳びん一杯の水がある。それはそこで充実し固定している。それを大きな鍋にぶちまける。当然中味は少なくなってしまう。それに少しずつ追加していく。自分にとってつらい。器だけ大きくなってエネルギーが足りない。それがシャクティーパットだ。心の広がりの中にエネルギーが充実していくプロセスが風と空のエネルギーを布施するシャクティーパットであり瞑想なんだ。」

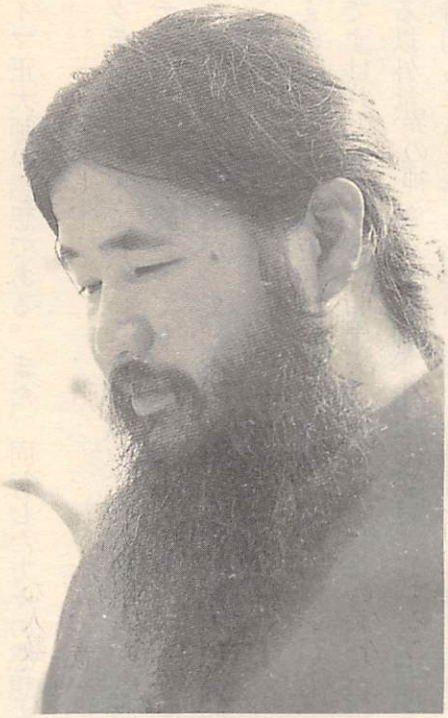
シャクティーパットによって、広大な心が生まれていくことを、尊師はこのようなたとえで説明されている。

シャクティーパットのもたらす果報、それは実に深遠である。自己が背負ったカルマのすべてを落とす前でも、大乗の愛と慈悲の心がもたらす様々な果報が正大師の体験から認めることができる。それらはまさに「愛に支えられた奇跡」と

いえるものだ。

「終わりのころにはもう、今まで経験したこともないような人数、一日で最高六十人ぐらいの方に行ないましたので、肉体的な疲労とは逆に、意志力というか、思念の力がどんどん強くなっていくのがわかりました。尊師はよく、肉体はボロボロだけれども、強靭な意志の力で動いていらっしゃいますよね。それに比べたら、ほんのちょっとだけれども、とにかく肉体を意志の力で押さえ込むことができるようになったのが大きな収穫だったと思います。

つまり、すべてを動かしているのは意志の力であるということがわかったということです。そして、その意志の力というのは自分のものではなくて、意識しているのは尊師や高い世界の神々ですから、その方々を意識することによってエネルギーが流れ込んでくるんですね。観想がきちんとできていると、肉体ではどんなに疲れていても、それを疲れと感じないんですね。つまり、そのときは、全く



心と肉体は別物であるという状態になっているんだと思います。」

マハー・ケイマ正大師の感想である。また、同行した方々の感想も興味深い。

「後半のシャクティーパットでは、いきなり『悦』の段階にまで入る人がいましたね。シャクティーパットが終わっても、十分以上『悦』に入ったままなんです。そして、やっとのことで起き上がって、ふらふらしながら帰っていかれましたよ。とにかく、すごいパワーですね。

パワーといえば、一人一人の時間にすれば十分ですから、たいしたことではないと思いがちですけれども、例えば六十人にするときには、途中に一回食事を兼ねた休憩を取る以外は、ぶっ続けで精神集中をし続けていることになります。これは、延べ十時間もエネルギーをロスしながら精神を集中させ続けているということですから、凡夫にはとてもこなせる技ではないですね。」

（ウルヴェーラ・カッサパ師）

「シャクティーパットを受けられた方が、ケイマ正大師の深い愛を感じて泣き出してしまうということがありました。その方はもう一度受けたいと言われていました。

また、ミスをした人に注意をなさるときも、その人の成長を願っているということがよくわかります。怒りや憎しみといった波動は全くなく、そこにあるのは深い愛だということがはっきりとわかるのです。これは、尊師の『そばにいたくなる』波動とも相通じるものがありました。」

（サクラー正悟師）

「シャクティーパットをなさると、ケイマ正大師のお顔が次第にむくんで、土気色になっていかれるのがわかります。けれども、信徒さん一人一人に丁寧に対応

なさるのです。それはいつも愛に満ちた対応であり、シャクティーパットを受ける前はそうでもないような方が、受けた後では正大師の深い愛を感じるのか、合掌してごあいさつする方が非常に目につきました。」

（ジェーンティー師）

マハー・ケイマ正大師は、このシャクティーパットの加行を「愛のベースを作る修行をさせていただいた」と言われる。自己の完成を目指す修行から、利他の愛のデータを植え付けていく修行であったということである。

「もちろん、尊師からのイニシエーションも、確かに愛のデータを植えつけるものですけれども、それプラス、常に自分で愛の心を意識するしかないといえます。その意識する訓練を、このシャクティーパットでやらせていただいたと思っています。」

・研ぎすまされる神通、そして空の合一

ヤソーダラー正大師も、やはり苦しいシャクティーパット期間中に目ざましい修行の成果を体験されている。

「今回のシャクティーパットが始まってからというもの、修行に心がけていたせいか、これまでと違った他心通（他人の心を知る神通力）が身についた。それは、瞑想中に同じ空間にいる人の想念が突然ヴィジョンとして飛び込んできたり、その後にヴィジョン化したりするのである。そのヴィジョンによってわたしはその人の心を知ることができた。

例えば、某支部でのシャクティーパット中（このときは瞑想状態にある）、一瞬形状界に入ってしまった。そのときに見えてきたものはなんとインドの風景だった。原色がよく似合うインドの太陽の光。イスラム建築風の寺院。そして、やせたインド人男性。彼はガムチャと呼ばれる布を無造作に垂れ下がらして立ってい

た。特に黒くて細いはだしの足が印象に残った。

わたしはシャクティーパットを行ないながら、そのときシャクティーパットを受けていた男性に意識を集中し、その人のデータを読み取ろうと試みた。

『この人は、インドに行ったのだろうか？　いや、行ってはいない。それでは、ものすごくインドに興味を持っているのだろうか？　いや、そうでもない。おかしい。なぜ、あんなヴィジョンが見えたのだろう？』

間もなく、その理由がわかった。ドアの外でシャクティーパットの順番を待っていた人の想念がわたしの中でヴィジョン化したのだ。その人はアンケートに、

『旅行から帰ってきてタマスになって修行ができない』

と書いてあった。

（なあんだ。この人の想念だったのか。それにしても思念の力が強いなあ。以前は相当修行していたのだろう。）

と思い、シャクティーパットを終えてから、声をかけた。

『以前の修行によってもっているような状態ですね？』
『そのとおりです。』
『インドが特に強く印象に残ったでしょう？』
『……そうです。』
彼は不審な顔をした。そして後で、シャクティーパット後のガイダンスを担当したチャーラー師に、
『本当に正悟師にはこれしか見せてないんですか？　何でわかったんだろう？』
と言って首をかしげていたそうだ。」

また、心の中にある苦しみに精神集中することで瞬間的に苦が消え去るという「心解脱（しんげだつ）」の体験もされている。

「あるときは、近くにいた人の想念がわたしの中に飛び込み、ヴィジョン化した。

（わたしにこういう感情があったのか。）

当初わたしはそのヴィジョンが自分の心の現われであると勘違いしてしまった。また、その感情が苦しみをもたらすものであるということがありありとわかった。ただし自分のものにしては、ちょっと異質だった。そこでわたしはヴィジョンに集中してみた。しばらくすると、瞬間的にその想念がだれからきたものだったかがわかった。と、同時に心が軽く明るくなった。知らぬ間に、その人の想念がわたしの心に影響を与えていたのだ。ところが、それは集中することによってパッと瞬間的に消え去ったのである。

（これは素晴らしい！）

わたしはこれを重要な体験だと考えた。まさに苦は、瞬間的に消え去ったのだ。後に本人に確かめてみたが、その感情が生起した過程も含めて、わたしが指摘したとおりであった。

わたしは早速この体験を尊師に伝えた。尊師によると、これが悟りであり、こ

の悟りの集積が離解脱なのだという。そして、わたしが使った方法は心解脱というのだそうだ。」

そして、グルである尊師の「空」と自己の「空」との合一を体験され、さらには、インド巡礼時にサキャ神賢の空と同化し、その悟りのデータを読むという驚くべき体験までされている。

「……そして、その後完全なる合一状態になっていったような気がする。グルの持つ純粋、透明でかつ広大、無辺、深遠な大いなる空に、わたしの小さな空が溶け込んだ状態だ。溶け込むことによって、グルの大いなる空がわたしの空を浄化してくださっているらしい。

（経典に描かれているグルとの合一、大いなる空との合一とはこのことだったんだなあ。）

わたしはグルの中に包含され安住した。求めるものはもはやなかった。きっと、これはグルヨーガにおける最上の秘儀に違いない。わたしはそう思った。

そこの空と空との合一に関していえば、シャクティーパットを一時中断して連れていっていただいた仏跡巡礼中にも、あることを体験した。

ブッダガヤーでのことだ。ここは、サキャ神賢が偉大なる悟りを開かれた聖地であるが、サキャ神賢が座られた場所、つまり、菩提樹の下で瞑想させていただいたところ、わたしの空が広がっていった（これは心の広がりが出ていることを意味する）。そして、なんとサキャ神賢の大いなる空の一部と同化したのだ。

サキャ神賢のデータがわたしの中に流れ込む。そのデータを読むことによってわたしは気づく。

（このとき、既にサキャ神賢にとっての解脱は、自分のためではなかった。すべての魂のために解脱を果たされようと意思されていたのだ。）

おそらく、シャクティーパットによって大乗の種子が芽生えていたからこそ、

このサキャ神賢の空の一部と混じり合うことができたのだろう。

また、サキャ神賢の空は尊師と共通したものを多く持っているようだった。いうなれば、〝真理〟。実際、わたしは尊師の空に引っ張られるようにして、サキャ神賢の空にたどり着いたのだ。

『そうだ。お前もその厳しい大乗の道を歩いてゆかねばならないんだ。』

この尊師のお言葉に心が引き締まる思いがした。」

様々な奇跡的な体験、それは過酷なシャクティーパットの修行、大乗の修行の功徳がもたらしたものである。尊師のお言葉どおり、それは最終的には自己を利する修行であり、その果報は、わたしたちには計り知れないものなのである。

「今回のシャクティーパットと特別イニシエーションを通して、大量のエネルギー移入を体験させていただきました。また、激しいエネルギー・ロスも体験させて

いただきましたが、このエネルギー・ロスが大きければ大きいほど、成就の素晴らしさを実感することができますし、人々の苦しみも実感することができるのです。そして、その苦しみとは、かつてのわたし自身に他なりません。

わたしは今、麻原尊師という偉大なグルによって、成就という素晴らしい宝を得ることができたわけですけれど、その他の人々はまだ、かつてのわたしと同じように苦しみの世界で迷っているのです。そう思ったとき、その苦しみをわたしの中に内在させて、早く取り除いてあげたい。このまま迷妄の世界で苦しんで、三悪趣に落ちないようにしてあげたい。そして、三悪趣に落ちてしまったらひどく苦しまなければならないのだから、一日でも早く真理の道に気づいて修行の道に入ってもらいたい。そういう気持ちが自然とわいてくるのです。

これは、シャクティーパットによって、高い世界のエネルギーがわたしを通るためではないかと思います。高い世界の大乗の愛のエネルギーがわたしを通ることによって、今まで自分のことしか考えなかった小乗の心が変化していくのです。

そして、四無量心のベースが作られていくのがわかるのです。

やはり、四無量心のベースを作るためには、千名のシャクティーパットと百名の特別イニシエーションが必要なのではないでしょうか。」

（マハー・ケイマ正大師）

「修行前に持っていた以上に強い、いろいろと低い煩悩というものを多くの人から受けてしまった。煩悩というのはこういうものかと、まざまざと体験しているという状態ですね。まあ、もっていき方によってはプラスになるなと思うのは、そういう状態を体験することによって、今までは、マハー・ムドラーの成就前——マハー・ムドラーといっても、煩悩をグルの力によって止滅されているという状態なわけですけれども、その煩悩が動いているときでも、今のような煩悩は味わったことはないと思うんですよね。それだけいろんなタイプの、例えば七百人ぐらいの煩悩というのを自分の中に受け持って、どういう煩悩というのがあるん

だとわかったということは、これはまた経験となって、それを再び止滅することができたら、救済に役立つなと思います。相手の状態がわかるとともに、その滅し方も改めて学ぶわけですよね。だから尊師が言われたように、苦しみを味わったからもっと大きくなるということは、こういった面からも言えるんじゃないかと思いますね。」（ヤソーダラー正大師）

・光の道筋、シャクティーパット

「いかに清らかなマハー・ニルヴァーナが、いかに純粋なマハー・ニルヴァーナが、いかに完全なマハー・ニルヴァーナが、いかに絶対的なマハー・ニルヴァーナが、いかに歓喜あふれるマハー・ニルヴァーナがあったとしても、それを導く人がいなければ、この人間の世界には降りてこない……。」

これは、尊師がシャクティーパットをやり遂げた弟子を称賛する意味で語られた

91年12月よりシャクティーパットを行なうマイトレーヤ正悟師。続いて行なわれるマンジュシュリー・ミトラ正悟師。新たな奇跡が生まれる日は近い。

言葉であるが、同時にわたしたちはここから尊師の力というものもうかがい知ることができる。わたしたちを真の幸福へ導くマハー・ニルヴァーナのエネルギーは、まずは尊師を通じて降りてくるからである。

そして、忘れてはならないことだが、グルが弟子を真の大乗の救済者として育てるためになす苦労はこの上なく大きく、その実態はうかがい知ることができない。シャクティーパットで苦しむ弟子たちをいかにして引き上げるか、そのために尊師は様々な神通力を使い、そしてマハー・ムドラーと呼ばれるカルマを落とすための高度なテクニックを縦横に駆使されるのである。

「(尊師)ただしね、ここで一つ言っておかなければならないのは、じゃあシャクティーパットは、害しかないじゃないかと。ではなくて、やはり信徒の人たちがマハー・ケイマを評価しているとおり——すごく大らかな菩薩になったという表現を使っているけど、そういう形で、心が広くて深くなるんだよ。マハー・ム

ドラーを成就して、相手に利益を与えることによって——。

そこで、次の言葉を言うとね、わたしの今言ってることがよく理解できると思うんだけど。ヤソーダラーを今までわたしがいじらなかった理由というか、イニシエーションその他の強烈な方法で抜かなかった理由というのは、そこにあるわけだ。言い方を換えれば、そんな苦しみを経験することによって、大乗の修行は進むんだよ。わかるよね、言ってることは。だから経験させて、もうこれが彼女の今の状態の限界であるとなった段階で、カルマを抜いてあげるわけ。例えば、次はまた七百、八百と多分規定数まで行なうだろうから、そうなった段階で、同じようにまたルン・トラブルが起きるよ。今度はちょっとひどいかもしれない。それに対する対応はしっかりと考えてやらなきゃいけないなと思ってるけどね。

（編集部） 状態が悪くなるとわかっていても、あえてシャクティーパットをなさると。

（尊師） 例えば、マハー・ケイマのシャクティーパットのときもそうだし、今回

のヤソーダラーのシャクティーパットもそうだし、次に行なうヤソーダラーのシャクティーパットもそうだけど、オウム真理教にとっては決してプラスじゃないんだよ。そこでアストラルがけがれて揺れが生じるから。でも、教団というそのコミュニティーよりも、教団の財産としては、個人の方が大切なわけだよ。一時的にいろんな救済活動が停滞したり、あるいはマイナスの方に向かったとしても、結局、その個人が最後は教団の要石となるわけだよ。瞬間はマイナスなんだけど、大きな目で見たらプラスになるわけだよ。例えば、先程言ったマハー・ケイマもシャクティーパットをやらないで、もしわたしがやってたら、もっと教団は違った方に向かっているだろうけど、彼女は結局その経験を積んで、最後はカルマを落として、その結果、覚めてくれたがために、今、要するに信徒さんも大いに喜んで活気づいて、関東の救済活動は進んでいる、という実情があるわけだよね。これはヤソーダラーもまさに同じだよ。シャクティーパットをやってカルマを受けて、けがれて、その後、極厳修行して抜け出したら、やっぱり同じように相当

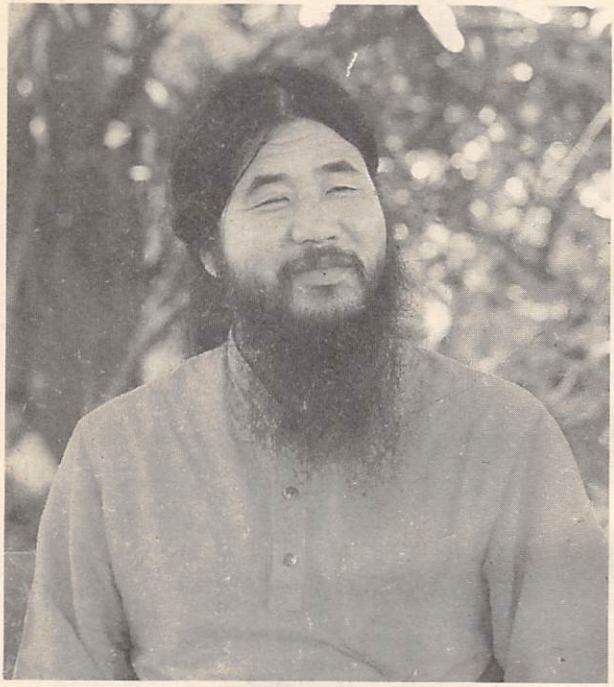
に大きな救済をするだろうと思うね。」

今年の七月にシャクティーパットの加行を終えたばかりのヤソーダラー正大師は、尊師の愛に見守られながら、現在ご自身が引き受けたカルマを落とすための修行に取り組まれている。そして十二月には、五日間飲まず食わずのまま地中でサマディに入るという奇跡に成功されるまでに至っておられる。他から背負った多くのカルマが完全に落ち切ったとき、わたしたちはそこに新たなる崇高な魂の誕生を見ることができるであろう。

そして、わたしたちはここでもう一度思い出さなければならない。これらはすべて、わたしたちを絶対の自由・幸福・歓喜の世界へと導くことを目的になされることなのである。そこには、ただ純粋な、崇高な利他の心のみが存在しているのだ。

今、わたしたちの前には、その世界への光の道筋が開けている。それこそが、

偉大なる救済者たちが自己の生命と引き換えに受け継がれてきた神聖な秘儀の伝授、シャクティーパットなのである。



●驚き！　心の底まで見すかされ

◎苦しみを溶かす優しい言葉

少しずつ視界が明るくなっていくような感じがし、エネルギーが入っているのかなと考えながらマントラを唱えていると、ヤソーダラー正悟師から、わたしの今の心の引っかかりや悩み、苦しんできたことのすべてをご存じのような言葉をいただきました。その言葉の優しさがうれしくて、わたしのアナハタ・チャクラから熱いものが込み上げ、涙があふれてきて止められませんでした。

（東京都世田谷区　H・T　二十五歳）

◎すべてお見通し

（シャクティーパット後）心地良い状態にひたっておりましたが、無理をして起き上がると、「全然修行なさっていませんね」と言われてしまいました。さらに正悟師は「ザンゲをすることと、もっと道場に通うようにしてください」とおっしゃられました。

「ああ、やっぱりそうなんだな」とわたしは思いました。実は、わたしは入信してから四年にもなるのですが、一年を過ぎダルドリー・シッディが起きたあたりから、それまで毎週欠かさず道場へ通っていたのが、次第に足が遠のいてしまっていたのです。どうしても時間に追われがちな仕事の性格上、道場へ通う時間惜しさに、シャクティーパットの単位取得も通信講座によって取ったくらいなのです。

（東京都国立市　S・O　三十七歳）

◎適切なアドバイスに感激

シャクティーパット修了後、わたしが一番知りたかったことについて話してくださいました。そして、今のわたしの状態と何をすべきかということについてアドバイスしていただき、ビックリし、またうれしく思いました。

（東京都大田区　K・H　三十二歳）

◎病気をも見抜く

シャクティーパットの後、正悟師から「肉体がかなり弱っていますから、AHI（アストラル・ホスピタル・インスティテュート）で調べてもらった方がいいですよ」とのお言葉をいただきました。その後の検査で、肺結核と結核性胸膜炎と診断されました。

（千葉県東葛飾郡　Y・A　三十四歳）

●最高の愛、ありがとうございました

◎忘れられないお姿

正悟師の指がアージュニァー・チァクラのところで回転し始めました。回転する正悟師の指の辺りが心地よく、二回くらい白いものが確認できました。そして腰から背中の真ん中辺りにかけて冷たい感覚がありました。

終わった後は体がぴりぴりしてぽーっとなり熱を帯びて、立ち上がりたくない感じがしました。

体験としてはこんな感じでしたが、シャクティーパットを受けて何よりショックだったのは、憔悴しきった正悟師のお姿でした。ふだん、写真などで拝見する正悟師とは別人ではないかと思えるほどでした。相手のカルマ

を受け、そして惜しみなくエネルギーを注がれるそのお姿を眼前にして、言葉を失ってしまいました。

それでも正悟師はそんな苦しそうな感じをみじんも出さずに優しくアドバイスをしてくださいました。あのお姿は目に焼きついて離れません。そして、今後よりいっそう精進しなくてはいけないなと思いました。

（神奈川県川崎市　H・K　二十三歳）

◎大乗の愛に触れて

頭が後ろにのけぞるような規則的な震動が起こり、それがしばらく続いた後、今度は、無意識のうちに呼吸が速くなり、腹筋がリズムをもって収縮し、シュッシュッシュッと両鼻から音を立てて空気が出入りしました。その呼吸が次第に速くなってくると、目の前が真っ暗になり、次の瞬間に頭の中がパーッと白色光で満たされました。

正悟師は根気強く指を回転させておられます。自己の身体を犠牲にしてわたしたちのためにエネルギーを注入されている尊師と正悟師、本当に申し訳ないという気持ちでした。すると今度は、手首から先がピクピクと震え始め、震動が体全体に広がって背骨が脈打ってドタンドタンと飛び跳ねました。その後もう一度呼吸がシュッシュッと音を立てて規則的になり、目の前がパーッと明るくなりました。

終了後体を起こそうとすると、だるくてすぐには起き上がれませんでした。そのとき、正悟師から「大丈夫ですか?」との声をかけ

ていただきました。本当に疲れておられたのは正悟師の方でしたでしょうに、どうもありがとうございました。

（福岡県粕屋郡　H・K　二十三歳）

◎慈愛あふれるヴァイブレーション

正悟師のエネルギーは惜しみなくわたしに注がれ続けた。わたしのけがれたカルマと交換に正悟師のサットヴァのエネルギーが注入されたのだ。まさにその儀式は正悟師の命を無明の魂に捧げる救済活動以外の何ものでもない。

シャクティーパット終了後、正悟師からアドバイスをいただいた。その慈愛あふれる優しいヴァイブレーション。わたしは、この場にずっといたいと思った。

部屋を出ても額にエネルギーが集中し続けていた。何か心の重荷が一気に晴らされ、今まで感じたこともない爽快感が心を支配した。感動するとはこのことをいうのだろう。

そして今までわたしの行なってきた悪業が恥ずかしく、慚愧の念で涙が出た。

数日後、わたしの状態はすこぶる良い。他人に嫌悪の念がなくなった。体が軽快になり生きることがうれしくなった。

（兵庫県明石市　M・N　二十九歳）

おわりに

『新約聖書』の中に、次のような記述がある。

「わたしは悔改めのために、水でおまえたちにバプテスマを授けている。しかし、わたしのあとから来る人はわたしよりも力のあるかたで、わたしはそのくつをぬがせてあげる値うちもない。このかたは、聖霊と火によっておまえたちにバプテスマをお授けになるであろう。」（マタイによる福音書　第三章一一）

これは、ヨハネがイエス・キリストの出現を予言したものだが、この「バプテスマ」、これはまさにイニシエーションのことなのである。そして、イニシエーションの中でも最高のものこそ、クンダリニーの覚醒、つまり火によるバプテスマ、そして意識をチェンジさせること、聖霊によるバプテスマなのである。

また、『新約聖書』の中の謎の預言書として知られる「ヨハネの黙示録」には次のような記述が見られる。

「わたしたちの神の僕らの額に、わたしたちが印をおしてしまうまでは、地と海と木とをそこなってはならない」（ヨハネの黙示録　第七章三）

バプテスマ、そして額の印――ここまで本書を読まれた方は、すぐにおわかりであろう。そう、これはシャクティーパットを指しているのである。そして、このイニシエーションを受けた者のみが世紀末に救済されると、『聖書』には記されているのである。

シャクティーパット、そこには限りなく深遠な意味合いが隠されている。そして、『聖書』や、あるいはノストラダムスが予言する終末の破局は、刻一刻と確実に近付いているのである。

この本をお読みになって、どのような感想をお持ちになりましたか。あなたのご意見を、ぜひ下記の「『原爆覚醒』読者係」までお送りください。

〒154　東京都世田谷区世田谷2 - 8 - 17
オウム出版「『原爆覚醒』読者係」

◆各本支部のご案内◆
富士山総本部　0544(54)1267
〒418-01　静岡県富士宮市人穴381-1
東京本部　03(3327)8565
〒156　東京都世田谷区赤堤2-42-5 杉田村松ビル1F
新東京本部 03(3396)9393
〒167　東京都杉並区下井草4-4-4　井口ビル2F
大阪支部　06(397)1022
〒532　大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-14 八光ビル2F
福岡支部　092(474)2877
〒812　福岡県福岡市博多区博多駅前2-6-15 第一渡部ビル6F
名古屋支部　052(252)0709
〒460　愛知県名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル3F
札幌支部　011(241)4938
〒060　北海道札幌市中央区北2条西2丁目19-1 チサンホテル本館2F
京都支部　075(371)3759
〒600　京都府京都市下京区堀川通り松原上ル五軒町384 松本ビル2F
仙台支部　022(268)3904
〒982　宮城県仙台市若林区河原町1-4-20 十全会ビル2F
金沢支部　0762(51)8457
〒920　石川県金沢市京町25-20 ソフトオフィスビル2+4 2F
高知支部　0888(84)8286
〒780　高知県高知市はりまや町2-8-8 安藤ビル2F
広島支部　082(264)6250
〒732　広島県広島市南区西蟹屋4-4-18 和田ビル3F
横浜支部　045(243)8079
〒231　神奈川県横浜市中区若葉町3-41-2 コスモ伊勢崎長者町ビル204
和歌山支部　0734(24)2859
〒640　和歌山県和歌山市駿河町42 和歌山酒販会館2F
水戸支部　0292(26)8044
〒310　茨城県水戸市中央2-2-1 HDビル6F
船橋支部　0474(66)4965
〒274　千葉県船橋市新高根6-26-18
埼玉出張所　0485(74)6205
〒366　埼玉県深谷市箐場441-8
渋谷出張所　03 (3476) 5065
〒150　東京都渋谷区道玄坂1-15-3　プリメーラ道玄坂317号
〈海外支部〉
ニューヨーク支部　212(421)3687
8 East 48th St.#2E (2nd Floor), New York, N.Y. 10017 U.S.A.
ボン支部　(0228)616647
Auf dem Hugel 48, Endenich, 5300 Bonn 1,　S.R.Germany

原爆覚醒
精神の炎を目覚めさせよ！

一九九二年一月二十一日　初版発行

定　価　七三〇円
編　集　オウム出版広報編集部
発行者　松本知子
　　石井久子
発行所　株式会社オウム
東京都世田谷区世田谷二－八－一七
郵便番号　一五四
電　話　〇三（三四三九）六〇四三
振　替　東京二－一〇九三一五
乱丁・落丁がありましたらお取り替えいたします。

© AUM Editorial Staff 1992
ISBN4－87142－013－2　C0014　P730E

最高の智慧、神をも超えた力……
最終解脱者があなたを変える！

オウム真理教

その修行ステージの高さゆえ、
〝イェシェ――完全なる絶対なる神の叡智〟
とチベット仏教の高僧より称えられる
麻原彰晃尊師。
最高の智慧と神通力を有した
日本でただ一人の最終解脱者です。
その麻原尊師が、
あなたに贈る幸福へのプログラム。
病から解放されたい……
最高の幸福を得たい……
解脱と悟りを得、神通力を
ほしいままにしたい……
こんなあなたの願いを、
麻原尊師が仏教・ヨーガ・密教の
あらゆる秘儀を駆使して、
速やかにそして確実にかなえます。

※資料請求券を貼付した八ガキ、または電話にて最寄りの本・支部までご連絡ください。入信案内等、詳しい資料をお送りします。

キリトリ線

原爆覚醒
資料請求券

オウムについてもっと詳しく知りたい……
教義その他について,いろいろと聞きたいことがある……
オウムの人たちの生の声を聞いてみたい……
そんなあなたに最適な情報ネットワーク

好評！あなたとオウムをつなぐ パソコン通信、"オウム真理教ネット"

面倒くさい手続きは一切ありません。オウムに興味をお持ちの方、聞いてみたいことがある方は、今すぐお気軽にご利用ください。

"オウム真理教ネット"のご紹介

TEL番号	03-5370-1726
通信速度	1200/2400bps
通信条件	BITS-8 PARITY-NONE STOP-1
プロトコル	X-MODEM Y-MODEM(-G)
ゲストID	GUEST
運用時間	24時間
入会方法	ゲストログイン後、SYSOPあてメールにて申請

●なお、その他詳細は下記までお問い合わせください。

〒168 東京都杉並区宮前3-8-11
"オウム真理教ネット"事務局
TEL 03-3335-4965

笑顔の明日を予感させるライフクリエートマガジン

えんじょい・はぴねす

Enjoy Happiness

月刊『えんじょい・はぴねす』

――主な内容――

◆Voice of Buddha
最終解脱者が贈る幸福メッセージ
「光を超えて――えんじょい・はぴねす」
麻原彰晃尊師

◆Special Lecture
精神世界ファン必読の特別講義！
「宗教は一つの道」 麻原彰晃尊師

◆JĀTAKA Stories
「仏陀釈迦牟尼からの贈り物
――釈迦牟尼の輪廻転生に見る真実」

◆Science and Truth
仏教の真理を科学の視点で斬る！
「真理を科学する」

◆あなたもわたしも創造主

などなど、他の雑誌では絶対に見られない興味深い情報が満載！

「幸せになりたい！
でも、信徒になるのはちょっと……」
そんなあなたに贈る
最高のプレゼント！

『えんじょい・はぴねす』の定期講読を申し込まれた方は、様々な特典が受けられる〝EH会員〟になることができます。EH会員は信徒ではありませんが、自由にオウムのイベントに参加できますし、全国や海外の本部・支部をいつでも利用できます。お気軽にオウムをのぞいてみませんか？

特典の一部を紹介すると……

- ◉オウム主催のイベント、説法会等へ自由に参加可。
- ◉幸福情報を満載したEH会員手帳をもれなくプレゼント！
- ◉成就者との対面および電話による悩み相談。
- ◉各種販売物を信徒価格で購入可。

〝えんじょい・はぴねすの会〟会員（EH会員）になるには？

※入会金無料。月刊『えんじょい・はぴねす』の定期購読を申込み、料金の払い込みが確認されるとEH会員となります。
なお、定期購読の申込みは6カ月単位で郵送料込み6000円です。

※詳しくはお近くのオウム真理教本部・支部までお問い合わせください。

絶対幸福の鍵を解く

生死を超える

現実生活の苦悩から修行を志し、ついに解脱するに至った麻原彰晃尊師の貴重な体験をもとに、釈迦牟尼の「縁起の法」が、実はクンダリニー・ヨーガのプロセスそのものであったことを説き明かした名著「生死を超える」。

改訂

八十六年十二月発売以来、宗教、精神[illegible]を持つ読者に絶大な支持を受け、解脱を目指す修行者にとって、手放すことのできない〝バイブル〟となっております。新たに八人の体験談をまじえて贈る全面改訂版。

麻原彰晃

◎誰にも書けなかった知られざる世界が今ここに！
◎真実を求めるあなた、人生の悩み、苦しみを乗り越えたいあなたに贈るヨーガ、仏教の真髄！
◎修行者二十一人の豊富な体験談も満載！

麻原彰晃著／B6判／定価1854円（本体1800円）

●ご注文は書店にてお願いいたします。直接弊社にお申し込みの場合は下記まで。（送料300円）

●オウム出版　●〒154　東京都世田谷区世田谷2-8-17　電話：03(3439)6043/郵便振替：東京2-109325

仏陀の智慧が光を放ち混迷の時代を照射する

INITIATION

イニシエーション

麻原彰晃著

この名著はすべてを語っていた！

「解脱」「悟り」のプロセスを細やかに説き明かし、最高の修行法を伝授する。

本来、選ばれた弟子にのみ明かされる秘儀――ヨーガ・仏教の奥儀を極めた修行の正しさは、誕生した三五〇名の解脱者が証明する。

さらに、自民党の大勝と大敗、円高の進行、農作物輸入自由化など、今日の世界と日本の動向を正確に予言している、驚くべき記述の数々！

◎「解脱」「悟り」の真実／現代の仏陀麻原彰晃が最高の修行法を公開。

◎タントラ・イニシエーションの全貌／チベット密教・ゲールク派とオウムの秘儀を比較する。

◎確実に核戦争だ！／日本と世界の近未来を予言する。

◎総勢三十一名の体験談／「クンダリニーが覚醒する」「過去世が甦る」「悟りのプロセス」など、これが修行プロセスと霊的ステージの真実だ。

武田 健さん（東京都／学生）
「未法の時代は終わった」ということを確実に感じさせる本である。

松岡謙次さん（愛媛県／警備員）
読めば読むほど、「頑張ろう、やるぞ」と思わせるような素晴らしい本です。

山本 勇さん（石川県／会社員）
解脱するまでの心の状態が、多くの例を挙げてわかりやすく書いてある。

大森恵子さん（山口県／店員）
他の書では得られない絶対なる真理に触れることができた。

武田葉子さん（熊本県／主婦）
「人間として最高の、最終の目的は何か」ということがはっきり示されています。

本間智加子さん（東京都／経理事務）
宗教に対する偏見がいっぺんに吹き飛んでしまいました。

定価2163円 ご注文は書店にてお願いいたします。直接弊社にお申し込みの場合は下記まで。(送料300円)
オウム出版 〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17 電話03(3439)6043 郵便振替 東京2-109325

超能力 秘密の開発法

人が修行によって“人間”を
超えようとするとき、
必ず人知を超えた“力”が身につく。
超能力のつかない修行などニセモノだ！
日本でただ一人の最終解脱者、
麻原彰晃が贈る究極の秘儀伝授。

B6判／320ページ
定価980円（本体951円）

お近くの書店にてお求めください。なお、直接弊社にお申し込みの場合は下記までお問い合わせください。

オウム出版
本　社　〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17　TEL 03（3439）6043　振替2-109325
営業部　〒168 東京都杉並区宮前3-8-11 TEL 03（5370）1598

キリストの教えのすべてを明かす

キリスト宣言

大川隆法をはじめとするニセキリストたちを粉砕する衝撃の書。

この一冊でイエス・キリストの教えのすべてがわかる!!

麻原彰晃 著
B6判 550円

●ご注文は書店にお願いいたします。直接弊社にお申し込みの場合は、下記までご連絡ください。

オウム出版 〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17 TEL.03(3439)[illegible] 振替 東京2-109825
営業部 〒168 東京都杉並区上高井戸3-8-11 TEL.03(5370)1584

眼ある人は目覚めよ!

タターガタ・アビダンマ

麻原彰晃 著 B6判 550円

Tathāgata Abhidhamma

真理勝者 絶対最勝の法則

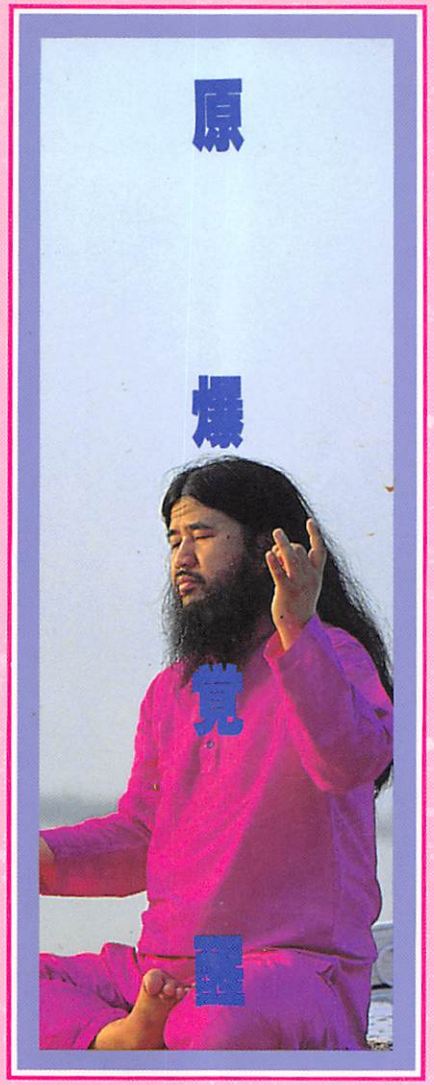
原始ヨーガ、キリスト教、ユダヤ教、イスラム教などすべての真理を内在した史上最強の法則。日本で初めて、サキャ神賢（釈迦牟尼）が説いた全体系が示される。

第一誦品　大宇宙の実相
第二誦品　真理勝者の救済計画

以下続刊

●ご注文は書店にお願いいたします。直接弊社にお申し込みの場合は、下記までご連絡ください。

オウム出版　本　社　〒154　東京都世田谷区世田谷2-8-17　TEL 03(3439)6043　振替 東京2-109325
営業部　〒168　東京都杉並区宮前3-8-11　TEL 03(5370)1598



ISBN4-87142-013-2 C0014 P730E 定価730円(本体708円)